

「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」の  
実現を目指して

## 第6次高浜市総合計画 基本計画【後期】

# 施策評価シート

〔平成31年度の取組みに対する行政内部の評価〕



令和2年10月

# 目 次

## 1. はじめに

- (1) 「施策評価」(点検・確認)のねらいと実施方法 . . . 2
- (2) 基本計画[後期]の体系 . . . 6
- (3) 施策評価シート とりまとめ部署一覧 . . . 10

## 2. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果

- (1) 基本計画の施策に対する「市民意識調査」結果 . . . 12
- (2) 「みんなで目指すまちづくり指標」一覧 . . . 13

## 3. 施策評価シート

- (1) 施策評価シートの見方 . . . 16
- (2) 施策評価シート

### 基本目標Ⅰ. みんなで考え みんなで汗かき みんなのまちを創ろう

- 目標(1) まちへの想いを育み、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくり  
ます . . . 18

- 目標(2) 将来を見据えた健全な財政運営を行います . . . 20

### 基本目標Ⅱ. 学び合い 力を合わせて 豊かな未来を育もう

- 目標(3) 学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちのチカラを育みます . . . 22

- 目標(4) 学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます . . . 24

- 目標(5) 子育て・子育てを支える環境を整えます . . . 28

### 基本目標Ⅲ. 明日を生み出すエネルギー やる気を活かせるまちをつくろう

- 目標(6) 産業を活性化して、まちを元気にします . . . 30

- 目標(7) みんなでまちをきれいにします . . . 33

- 目標(8) 自然と都市機能が調和した都市空間をつくります . . . 34

- 目標(9) 安全・安心が実感できるまちづくりを進めます . . . 36

### 基本目標Ⅳ. いつも笑顔で健やかに つながり 100 倍ひろげよう

- 目標(10) 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます . . . 40

- 目標(11) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します . . . 44



1

はじめに



## ■ □ (1) 「施策評価」(点検・確認)のねらいと実施方法 □ ■

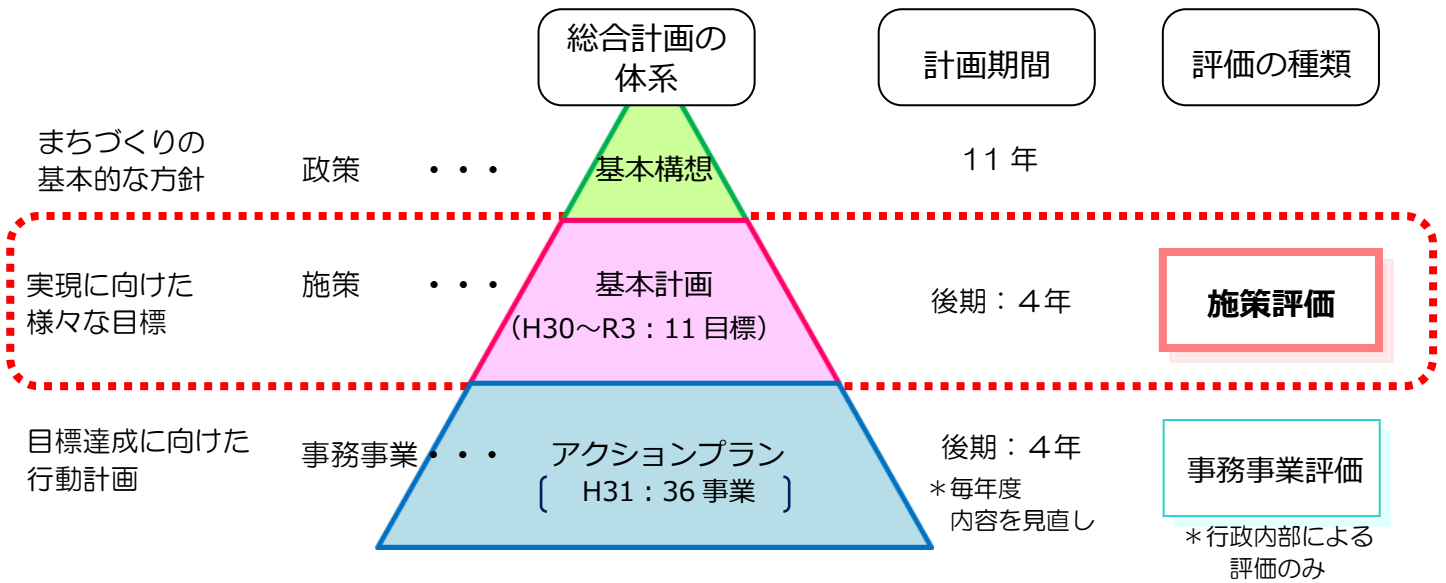
### ■ 目指す姿の実現に向けて、計画を着実に推進していくために…

- ◇ 総合計画は、みんなで力を合わせて高浜市をつくっていくために「こんなまちにしていこう!」というまちづくりの目標を掲げ、その実現に向けて必要な取組内容を盛り込んだ、「高浜市のまちづくりの設計図」です。
- ◇ 総合計画を実効性のあるものとしていくため、「自治基本条例」と「第6次総合計画」に「計画の進行管理」を位置づけ、PDCA サイクル\*に基づき、目標の達成状況の点検・検証、事業の見直し・改善を行うことを宣言しています。

\* 「PDCA サイクル」… 計画 (Plan) し、実行 (Do) し、その結果を評価・検証 (Check) し、改善策や次の施策に活かしていく (Action) こと。



## ■ 総合計画の体系と評価(点検・確認)の種類



## ■ 「施策評価」(点検・確認)とは

◇ 「施策評価」(点検・確認)とは、目指す姿の実現に向けて、「後期基本計画」に掲げる11目標について様々な観点から点検・確認し、その結果を「アクションプラン」の見直しに反映させ、よりよい行政サービスにつなげることをいいます。

### 高浜市自治基本条例

第21条(総合計画の策定等)

第3項

行政は、成果を重視した市政運営を目指すため、総合計画の進行管理を行い、その状況をわかりやすく公表します。

### 第6次高浜市総合計画

後期基本計画 第4章 計画の進行管理

総合計画の基本計画に掲げる目標の達成に向け、その達成状況を点検・確認し、事業の見直し・改善を行うPDCAサイクルを組み入れ、適切な進行管理を行います。

## 施策評価(点検・確認)のねらい

①緊張感を保ちながら、よりよい行政サービスにつなげるために ～市民目線を意識して～

総合計画に掲げた目指す姿の実現に向けて、「総合計画推進会議」や「市民意識調査」、日頃の業務を通じてなど、多様な方法で市民の皆さんの声をお聞きし、行政が行っている事業が市民のみなさんの役に立っているかどうかを、緊張感を保ちながら様々な観点から評価(点検・確認)し、事業の見直し・改善に反映させることにより、よりよい行政サービスにつなげる。

②市民とともに課題を考え、解決に向けて行動していくために ～情報共有と説明責任～

市民と行政が市政運営やまちづくりの課題などについて共通認識を持ち、解決策についてともに考え、目指す姿の実現に向けて行動できるように、後期基本計画に掲げる目標の推進状況、目標の達成状況などの点検・確認結果などを、市民にわかりやすく公表・情報を共有することにより、市政の透明性を高め、説明責任を果たす。

## ■ 2段階評価による実施

- ◇ 「施策評価」（点検・確認）は、行政内部による評価と、市民目線で取組内容や効果等を点検・確認していただく外部評価（第6次高浜市総合計画推進会議）の2段階で実施します。

## ■ 評価（点検・確認）結果の活用・反映

- ◇ 第6次総合計画推進会議による評価（点検・確認）結果をとりまとめ、市長へ提出します。

- ◇ 評価（点検・確認）結果のうち、すぐ実行に移せるものについては、令和2年度に実行中の事業に反映し、実行していく。
- ◇ 予算措置等が必要で、すぐに実行できないものは、令和3年度アクションプラン策定の際の検討材料として活用する。



評価（点検・確認）結果を公表することにより、市民と情報を共有し、説明責任を果たす。

### 第6次高浜市総合計画推進会議

〔所掌事務〕

（「第6次高浜市総合計画推進会議設置規則」より）

- 1) 総合計画の進行管理に関する事項
- 2) その他総合計画の推進に関する事項

具体的には・・・

- ◇ 後期基本計画に掲げた施策（11 目標）について、行政がとりまとめた「施策評価（内部評価）」の内容を点検・確認し、目標の達成に向けた意見・アイデア等を述べる。

＜点検・確認の主な視点＞

- ① 取組内容は、目標達成のための手段として適切だったか。
- ② 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」の結果分析や課題把握は的確か。
- ③ 課題の解決に向けた今後の取組み（案）は、目標達成に資する内容となっているか。

- ◇ 「点検・確認結果」をとりまとめ、市長へ提出する。
- ◇ 推進会議が提出した「点検・確認結果」が、施策・予算等へ反映されているかを確認し、必要に応じて意見を述べる。
- ◇ 推進会議の進め方について協議する。
- ◇ 推進会議のあり方について検討する。

〔構成〕 12 名

- ・ 中川幾郎氏（帝塚山大学大学院名誉教授）
- ・ 市民（10 名）
- ・ 副市長

〔開催頻度〕 年 4 回程度

☆意見を述べる

☆点検・確認結果を報告

キャッチボール

☆検討資料の提示

☆求めに応じて関係職員が出席

### 行政

市長

#### 【部長会】

〔役割〕

- ◇ 後期基本計画の進行管理に向けた総合調整を行う。
- ◇ 推進会議が行う調査・審議に対し、求めに応じた報告や資料等の調整を行う。

資料を提出

職員へ指示

#### 【各担当グループ】

〔役割〕

- ◇ 後期基本計画に掲げた目標の達成に向けて、施策・事業を推進する。
- ◇ 推進会議が行う調査・審議に対し、求めに応じた報告や資料等の作成を行う。
- ◇ 推進会議から示された意見等について、実現可能かどうかを検討し、施策・予算等へ反映する。

#### 【事務局】（総合政策グループ）

〔役割〕

- ◇ 後期基本計画の進行管理事務、推進会議の運営を行う。
- ◇ 推進会議の求めに応じた資料等の取りまとめを行う。
- ◇ 進行管理にあたって必要な各種データ・情報の収集を行う。

参画・協働・情報共有

たかはま未来カフェ

〔目的〕 後期基本計画を推進する中で、行政が抱える課題の解決・改善につながる具体的なアイデアをいただく。

市民

#### 【点検・確認】

- ★ 市民や地域が関わるソフト系の施策（取組み）を中心に、事業をより良くするためのアイデアや改善点などの意見・提案を出す。

行政

- ★ 未来カフェの取り回しを行う。
- ★ 市民のみなさんが意見・提案を出しやすいようにデータを調べたり、検討資料を作成するなど、わかりやすく情報を示す。

## ■□ (2) 基本計画【後期】の体系 □■

基本計画【後期】は、基本構想に定めた将来都市像「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ」までに、市民・地域・事業者・関係機関・行政が協働して取り組むまちづくりの方向性やための具体的な方策・手段（こんなことに取り組みます）を35本掲げます。

都市像	基本目標	目標	こんなことに
思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかしま	I みんなで考え みんなで汗かき みんなの まちを創ろう	<b>(1) まちへの想いを育み、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくり</b>	
			☆市民と行政がお互いの考えを理解できるよう、積極
			☆市民・地域・行政が得意分野を活かし、それぞれの
			☆職員のワークライフバランスを考えた「働き方」改
		<b>(2) 将来を見据えた健全な財政運営を行います</b>	
			☆市の財政運営や税金に関する情報など、市民の知り
			☆工業用地の創出、市税徴収力の強化、受益者負担の適
			☆公共施設の再編や長寿命化に対する市民の理解を
	II 学び合い 力を合わせて 豊かな未来を 育もう	<b>(3) 学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちのチカラを育みます</b>	
		☆市民とともにまちの魅力・自慢（歴史・文化・伝統・	
		☆市民（特に子ども・若者）の「知りたい」「やって	
		☆「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも」気	
<b>(4) 学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます</b>			
		☆異校種間連携事業で、自分や周りのよさに気づいたり、	
		☆高浜カリキュラムで、高浜の人・もの・ことを活か	
	☆高浜カリキュラム教科版で、優れた授業実践案を集約・		
	☆支援の必要な児童生徒の「特別支援ファイル」の作成と引き継ぎ		
<b>(5) 子育て・子育てを支える環境を整えます</b>			
		☆「高浜市子ども・子育て支援事業計画」に沿って、	
		☆子どもの想いを理解し、子どもの視点に立って、子	
		☆身近な場所に、子どもの自主性・社会性をはぐくめ	



ぐ「大家族たかはま」を実現するため、平成30年度（2018）から令和3年度（2021）目標を示したものです。目指すべき姿（個別目標）を11目標、目標値や目標を達成する

<b>取り組みます！</b>
<b>まず</b>
的な情報発信を行うとともに、対話の場をつくります。
ステージで自分たちのできる“まちづくり”に取り組んでいくための環境づくりを進めます。
革と、職員が地域に関わる“きっかけづくり”から“課題発見・解決”まで段階に応じた成長支援を行います。
たい財政情報を積極的にわかりやすく発信します。
正化など、財源の確保に努めるとともに、真に必要な事業を見極め、限りある財源のより効率的・効果的な活用に取り組みます。
高めるとともに、順次、個別施設計画を策定し、公共施設総合管理計画の着実な推進につなげます。
産業・景観など）を掘り起こし、守り、伝え、活かしていく活動を強化します。
みたい」「役立ちたい」を応援し、市民同士が学び合い、高め合う場づくりを進めます。
軽に楽しめるスポーツ・レクリエーションの機会をつくり、市民交流の場を充実します。
よさを活かしたりできるよう、支援します。また、異校種参観で教師力を向上させ、子どものよさを引き出す指導を展開します。
した教育を実践します。また、活用型のカレンダーを使って「高浜市が育てていきたい子どもの姿」を周知します。
活用したり、ICTを活用した授業や、高浜版プログラミング教育を実践したりして、主体的・対話的で深い学びを支援します。
を確実に行うシステムを構築します。また、教職員の特別支援教育への理解をより深めるとともに、指導力・実践力の向上をめざした研修を充実します。
多様で柔軟な保育サービスの提供など、教育・保育ニーズに対応し、待機児童ゼロをめざします。
育ち・子育てを支える大人を増やしていきます。
るよう、自然に世代間や異年齢交流などができる場を増やしていきます。

都市像	基本目標	目標	こんなことに
<b>思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかほま</b>	<b>Ⅲ 明日を 生み出す エネルギー やる気を 活かせる まちをつくらう</b>	<b>(6) 産業を活性化して、まちを元気にします</b>	
			☆農地とのバランスを考慮しつつ新たな工業用地を
			☆災害による風評被害の払しょくや伝統性を活かした商品開発
			☆高浜高校SBP（ソーシャルビジネスプロジェクト）
			☆高浜市観光協会や関連団体が行うイベントや高浜
		<b>(7) みんなでまちをきれいにします</b>	
			☆地域・学校・事業者・関係機関と連携した環境保全
			☆循環型社会の構築に向け、資源ごみのリサイクルを
			☆「高浜市みんなでまちをきれいにしよう条例」を推
		<b>(8) 自然と都市機能が調和した都市空間をつくりま</b>	
		☆道路や橋りょう等の計画的な維持管理のため、調	
		☆災害時でも水が安定的に供給できるよう、災害時避	
		☆公園施設長寿命化計画に則って計画的に公園施設	
	<b>(9) 安全・安心が実感できるまちづくりを進めます</b>		
	☆自然災害に対し、市民・地域・事業者・関係機関と		
	☆「高浜市みんなで犯罪のないまちにしよう条例」に		
	☆地域・警察・事業者・関係機関と連携し、特に自転		
<b>Ⅳ いつも笑顔で 健やかに つながり 100倍 ひろげよう</b>	<b>(10) 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めま</b>		
		☆生活困窮、介護、障がい、育児など、支援が必要な	
		☆その人に合った暮らしを実現するため、地域の実情	
		☆福祉サービスやふだんの生活を支えるための多様	
	<b>(11) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します</b>		
	☆生涯をとおして健康を意識し、生活の質を高めるた		
	☆高齢者の居場所である「健康自生地」を応援すると		
	☆疾病を早期に発見し、適切な治療が受けられる「か		

<b>取り組みます！</b>
創出し、企業誘致を進めるとともに、既存企業の投資意欲を高める支援策を推進します。
、ブランド化など、地場産業である三州瓦の優位性やデザイン性をPRするため、「高浜市みんなで三州瓦をひろめよう条例」を推進します。
ト)を支援し、高浜市の産業を全国的にPRするなど、ビジネス手法を用いた若い世代の育成支援をします。
市のPRに対し人的支援、活動支援をします。
活動に取り組みます。
進め、ごみの減量化に取り組みます。
進し、環境美化活動を進めます。
査・点検を進め、改良や修繕を行います。
難所へ水道を供給する配水管を耐震管に布設替えるなど、耐震化を進めます。
の修繕を進めるとともに、地域の関係団体と協働で「緑のあるまちづくり」を進めます。
「自助」「共助」「公助」の考えに基づく役割分担と相互の連携強化を図り、実践的な防災・減災活動に取り組みます。
に基づき、地域・警察等で構成する高浜市防犯ネットワーク会議を軸に、犯罪抑止活動を推進します。
車の運転マナーの向上、高齢者や子どもの交通事故防止に向けた取り組みなど、交通安全対策を進めます。
<b>す</b>
人に対し、早期かつ包括的な相談支援を行い、各々の事情に応じた支援につなげます。
に応じて、福祉サービスや地域の支え合いの充実を図ります。
な人材を養成します。
めの健康づくり活動を応援します。
ともに、担い手としての活躍の場を創出します。
かりつけ医」を持つよう働きかけるとともに、地域医療の充実と医療と介護の連携を推進します。

# ■□ (3) 施策評価シート とりまとめ部署一覧 □■

◎=とりまとめグループ

## <基本目標Ⅰ>

みんなで考え  
みんなで汗かき  
みんなのまちを  
創ろう

企画部長 深谷直弘  
総務部長 内田 徹

目標 (1) まちへの想いを育み、  
いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくります

◎企画部 総合政策グループ  
企画部 秘書人事グループ

目標 (2) 将来を見据えた健全な財政運営を行います

◎総務部 財務グループ  
企画部 ICT 推進グループ  
教育委員会 学校経営グループ

## <基本目標Ⅱ>

学び合い  
力を合わせて  
豊かな未来を  
育もう

教育長 都築公人  
こども未来部長 木村忠好

目標 (3) 学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちのチカラを育みます

◎こども未来部 文化スポーツグループ

目標 (4) 学校・家庭・地域が連携を深め、

1 2 年間の学びや育ちをつなげます

◎教育委員会 教育センターグループ

目標 (5) 子育て・子育てを支える環境を整えます

◎こども未来部 こども育成グループ

## <基本目標Ⅲ>

明日を生み出す  
エネルギー  
やる気を活かせる  
まちをつくろう

都市政策部長 杉浦義人  
市民部長 磯村和志

目標 (6) 産業を活性化して、まちを元気にします

◎市民部 経済環境グループ  
都市政策部 都市計画グループ

目標 (7) みんなでまちをきれいにします

◎市民部 経済環境グループ

目標 (8) 自然と都市機能が調和した都市空間をつくります

◎都市政策部 土木グループ  
都市政策部 上下水道グループ

目標 (9) 安全・安心が実感できるまちづくりを進めます

◎都市政策部 防災防犯グループ

## <基本目標Ⅳ>

いつも笑顔で  
健やかに  
つながり 100 倍  
ひろげよう

(福祉部長 加藤一志)

目標 (10) 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます

◎福祉部 地域福祉グループ  
福祉部 介護障がいグループ  
福祉部 福祉まるごと相談グループ  
福祉部 健康推進グループ

目標 (11) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します

◎福祉部 健康推進グループ  
福祉部 福祉まるごと相談グループ



# 2

## 「市民意識調査」 「みんなで目指す まちづくり指標」 結果



## (1) 後期基本計画（平成30年度～令和3年度）の施策の点検・確認

総合計画の後期基本計画（平成30年度～令和3年度）では、「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」の実現に向けて、11の目標を掲げ、まちづくり（施策）に取り組みました。市民意識調査では、目標ごとにまちづくり（施策）の進み具合を確認しました。

設問		計画策定時の値 (平成29年)	実績値 (平成30年)	実績値 (令和元年)	動向
1	まちを愛する想いが生まれ、市民みんなが連携・協力して、まちづくりを行っているまちだと思う。	62.2%	61.8%	60.6%	×
2	将来を見据えた財政運営が行われていると思う。	46.6%	45.1%	46.7%	◎
3	学び（生涯学習やスポーツなど）を通して、人と人がつながり、まちづくりを担う人が育っているまちだと思う。	55.2%	53.4%	54.6%	○
4	学校・家庭・地域が連携し、子どもの12年間（4歳～15歳）の学びや育ちを育む体制が整っているまちだと思う。	58.8%	62.0%	64.0%	◎
5	子育て・子育てを支えているまちだと思う。	54.7%	55.5%	60.5%	◎
6	産業が活性化して、まちが元気になっていると思う。	21.0%	27.7%	26.7%	△
7	みんなで環境美化・保全に取り組んでおり、きれいなまちだと思う。	66.2%	65.6%	69.2%	◎
8	調和の取れた土地利用が図られ、安全・快適で移動しやすいまちだと思う。	44.8%	50.2%	56.1%	◎
9	安全・安心が実感できる防災・防犯対策が進められているまちだと思う。	57.7%	55.3%	55.1%	×
10	一人ひとりが認め合い、高齢者や障がい者などがいきいき暮らすことができるまちだと思う。	63.0%	58.5%	62.9%	○
11	一人ひとりの元気と健康づくりを応援しているまちだと思う。	65.8%	61.7%	60.5%	×

### 【動向】

- ◎…実績値（令和元年）が計画策定時の値（平成29年）と実績値（平成30年）をともに上回っている。
- …実績値（令和元年）が計画策定時の値（平成29年）を下回っているが、実績値（平成30年）を上回っている。
- △…実績値（令和元年）が計画策定時の値（平成29年）を上回っているが、実績値（平成30年）を下回っている。
- ×…実績値（令和元年）が計画策定時の値（平成29年）と実績値（平成30年）をともに下回っている。

## (2) みんなでめざすまちづくり指標について

総合計画の後期基本計画（平成30年度～令和3年度）の目標の達成度合いを示す目安「みんなでめざすまちづくり指標」の動向を確認しました。\*…市民意識調査で測定した指標

目標		みんなでめざすまちづくり指標 (目標の達成度を計る指標)	計画策定時の値 (平成29年)	実績値 (平成30年)	実績値 (令和元年)	動向	目標値(令和3年) 【指標の目指す方向】
1	まちへの想いを育み、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくりまします	市の情報発信に満足している人の割合*	47.3%	62.0%	60.3%	△	65% 【↑】
		地域活動に参加したことがある人の割合*	62.9%	58.6%	60.1%	○	70% 【↑】
		市民と一緒にあって地域活動に取り組んでいる職員の割合	54.0%	55.0%	60.0%	○	66% 【↑】
2	将来を見据えた健全な財政運営を行います	経常収支比率	88.8%	89.3%	88.3%	◎	80%台維持
		将来を見据えた財政運営が行われていると思う人の割合*	46.6%	45.1%	46.7%	○	55% 【↑】
3	学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちの子カウを育みます	高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合*	71.4%	66.4%	67.6%	○	76% 【↑】
		将来の夢・希望・目標を持っている子どもの割合*	76.1%	75.8%	69.6%	×	81% 【↑】
		持っている知識・特技・体験などを地域や社会活動に活かしている人の割合*	28.5%	27.9%	30.3%	○	35% 【↑】
4	学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます	自分や周りのよさを認める子どもの割合* ★注意1	78.5%	90.3%	88.1%	○	85% 【↑】
		地域や社会に関心をもつ子どもの割合* ★注意2	59.2%	74.5%	71.9%	○	70% 【↑】
		学習が将来、役立つと感じている子どもの割合* ★注意3	76.7%	80.4%	77.3%	△	85% 【↑】
5	子育て・子育てを支える環境を整えます	子どもを産み、育てやすいと感じている人の割合*	66.0%	65.9%	64.4%	×	70% 【↑】
		子どもに対して理解のある大人の割合*	66.2%	70.1%	72.0%	○	94% 【↑】
		待機児童数	17人	19人	11人	○	0人 【↓】
6	産業を活性化して、まちを元気にします	市内の法人数	919社	937社	946社	◎	930社 【↑】
		行政がかかわるイベントの来場者数	86,000人	89,000人	68,000人	×	100,000人 【↑】
		製造品出荷額等	5,123.5億円	4,465.8億円	5,680.1億円	○	6,227.7億円 【↑】
7	みんなでまちをきれいにします	日ごろから省資源や省エネなど環境に配慮した生活をしている人の割合*	77.9%	75.2%	77.1%	○	85% 【↑】
		1人1日あたりの家庭ごみ排出量	540g	564g	539g	○	490g 【↓】
		市民一斉清掃や地域・企業での清掃活動に参加したことのある人の割合*	60.4%	59.6%	58.0%	×	71% 【↑】

目標		みんなであげすまちづくり指標 (目標の達成度を計る指標)	計画策定時の値 (平成29年)	実績値 (平成30年)	実績値 (令和元年)	動向	目標値(令和3年) 【指標の目指す方向】
8	自然と都市機能が調和した都市空間をつくります	道路の長寿命化を計画的に実施した割合 (幹線道路の舗装)	18.4%	23.1%	28.4%	○	38.6% 【↑】
		配水管の耐震化率	18.5%	20.5%	22.4%	○	25% 【↑】
		公園・緑地・稗田川の水辺・ 港湾緑地等を利用している 人の割合*	20.2%	24.6%	25.0%	○	23% 【↑】
9	安全・安心が実感できるまちづくりを進めます	家具を固定している人の割合*	59.1%	61.0%	63.0%	○	70% 【↑】
		防災訓練に参加したことの ある人の割合*	61.9%	61.7%	64.3%	○	72% 【↑】
		人口1,000人あたりの犯罪 発生件数	6.9件	6.5件	5.9件	◎	60件 【↓】
		人口1,000人あたり交通事 故発生件数	3.9件	3.7件	2.7件	◎	30件 【↓】
10	一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます	いきいき広場(相談窓口)を 知っている人の割合*	72.3%	74.8%	77.2%	○	80% 【↑】
		高浜市内でボランティア活 動に参加したことがある人 の割合*	29.7%	28.3%	29.1%	○	36% 【↑】
11	一人ひとりの元気と健康づくりを応援します	日常的に外出や運動を楽し んでいる人の割合*	63.4%	66.3%	62.6%	×	71% 【↑】
		かかりつけ医を持っている 人の割合*	78.6%	74.7%	70.1%	×	84% 【↑】

- ★注意1 2つの設問の平均値(①自分は成長している(成長した)と思いますか ②あなたの周りには、お互いの考えを認めたりよさを見つたりすることができていると思いますか)
- ★注意2 2つの設問の平均値(①あなたは、高浜の人、もの、ことに関心がありますか ②あなたは、社会に関心をもって、新聞を読んだり、テレビやネットのニュースを見たりしますか)
- ★注意3 4つの設問の平均値(①分からないことがあった時、調べたり、どういことか考えたりしますか ②学習したことを活用していろいろな問題の解決に役立っていますか ③学習したことや考えたことを、表現を工夫して人に伝えたことはありますか ④②③の繰り返し、将来役に立つと感じますか)

#### 【指標の動向】

- ◎=実績値(令和元年)が目標値に達している。 <4指標/31指標>
- =実績値(令和元年)が目標値に達していないが、実績値(平成30年)を上回っている。もしくは、実績値(令和元年)が目標値に達しているが、実績値(平成30年)を下回っている。 <19指標/31指標>
- △=実績値(令和元年)が計画策定時の値(平成29年)を上回っているが、実績値(平成30年)を下回っている。 <2指標/31指標>
- ×=実績値(令和元年)が計画策定時の値(平成29年)・目標値をともに下回っている。 <6指標/31指標>
- ※実施年度により、【動向】◎○△×の説明・表現が異なります。

#### 【参考】

設問	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2
高浜市のまちづくりのキャッチフレーズ「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族 たかはま」を知っていますか。	22.4%	33.6%	39.9%	41.4%	43.4%	48.0%	46.7%	43.7%	44.3%





3

# 施策評価 シート



目標（１）まちへの想いを育み、いつまでも 住み続けたいと思えるまちをつくります

I. 目指す姿【PLAN】	
目標達成に向けての考え方	「いつまでも住み続けたい！」と思える高浜市を未来へとつないでいくために、まちの目指す姿を共有し、市民・地域・行政がそれぞれが力を発揮し、互いに連携・協力できる「つながるまちづくり」を進めていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ まちの課題や目標が市民と行政で共有され、市民が市政を身近に感じ、市政に対する関心・理解、満足感が高まっています。</li> <li>◎ 市民のまちへの愛着が高まり、まちのことを「自分ごと」として考え、まちを大切にし、自分にできる“まちづくり”を行っています。</li> <li>◎ 職員一人ひとりが地域課題について考え、市民や地域の想いに寄り添いながら、課題の解決に取り組んでいます。</li> </ul>
目標達成の進捗状況	A:順調 B:一定の進捗あり C:進捗が遅延している D:進捗が大幅に遅れている

H31 施策評価シート  
【サンプル】

目標の達成状況	数値値	数値値（H29）	数値値（H30）	数値値（H31）
<b>目標達成の進捗状況を A～D の 4 段階で記載します。</b>				
市民意識調査	62.2	61.8		
みんなで目指すまちづくり指標	市の情報発信に満足している人の割合（％）			目標値 65
	地			目標値 70
	市民と一緒にあって地域活動に取り組んでいる職員の割合（％）			目標値 66
	54.0	55.0		

目標の達成度合いをはかる「市民意識調査」と「みんなで目指すまちづくり指標」の数値の推移を示します。

こんなことに取り組みます！ （１）市民と行政がお互いの考えを理解できるよう、積極的な情報発信を行うとともに、対話の場をつくります。

II. 目標達成のための主な取組み【DO】	
何を・どうした	いつ
① 『広報たかはま』において、市民記者が撮影したものとわかるように撮影者名を明記のうえ写真を掲載し、市民記者の認知度・関心を高めた。若者会議を 6 回開催し、50 周年記念事業について一緒に考えた。	H31 中
② 情報発信の在り方を見直し、情報を伝えたい対象に合った発信方法・内容を充実・強化していくために、4 月発行の広報紙から月 1 回発行に見直し、12 月にリニューアルしたホームページを公開した。また、フェイスブックを用いてリアルタイムでの情報発信をおこなった。	R1.12
③ 新しい市公式ホームページを運用するため、10 月に職員研修を実施した。	R1.10
④ 市公式ホームページリニューアルと連動した投稿型フェイスブック運用をめざし検討を進めた。	H31 中

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】	
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）	

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】	
<p>【行政の記載内容】 「市民意識調査結果」や「みんなで目指すまちづくり指標の推移」を踏まえ、指標（目標）が達成できた要因・達成できなかった要因の分析、「市民意識調査結果」や「指標の推移」から見てきた課題を、<b>箇条書きで分かりやすく</b>記載します。</p> <p>【推進会議の着眼点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 「II. 目標達成のための主な取組み」の成果との関連を踏まえた分析が行われているか。</li> <li>② 指標等の結果から見てきた課題が、適切に分析されているか。</li> <li>③ 課題解決に向けた考え方・方向性が示されているか。</li> </ul>	

こんなことに取 り組めます！	(2) 市民・地域・行政がそれぞれの得意分野を活かし、それぞれのステージで自分 たちのできる“まちづくり”に取り組んでいくための環境づくりを進めます。
II. 目標達成のための主な取組み【DO】	

**【行政の記載内容】**

- ◇ 平成 31 年度の取組みや市民意識調査結果・指標の状況から見てきた課題、新たに発生している課題を記載します。
- ◇ どのように課題解決に取り組んでいこうと考えているのか、課題解決に向けた方向性（案）を記載します。
- ◇ 課題解決に向けた方向性（案）に掲げた内容に、いつから（いつまでに）取り組むのかを記載します。

**【推進会議の着眼点】**

- ① 「課題」は、「市民意識調査」や「みんなで目指すまちづくり指標」の分析を踏まえたものとなっているか。
- ② 「課題解決に向けた方向性（案）」は、課題を的確に踏まえたものとなっており、具体的な事業を想定して記述されているか。
- ③ 特に、指標等が低下したものについては、方向性（案）がしっかりと練られているか。
- ④ 記載内容の他に、目標の達成に向けて改善すべき課題や今後の取組みにつながるアイデアはないか。

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】		
「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）		
IV. 課題と今後の取組み【ACTION】		
課題		いつまでに
課題解決に向け た方向性（案）		

こんなことに取 り組めます！	(3) 職員のワークバランスを考えた「働き方」改革と、職員が地域に関わる“きかっ けづくり”から“課題発見・解決”まで段階に応じた成長支援を行います。
II. 目標達成のための主な取組み【DO】	
何を・どうした	いつ
① 管理職、主査職等を対象に、業務全般に対する当事者意識や対人関係構築能力を高めるた めの「オーナーシップ研修」を実施した。	
② 採用4年目までの若手職員を対象に8月から業務改善研修を実施し、1年目職員にあって は全庁共通業務の改善に取り組み、2年目から4年目までの職員にあっては担当業務のI CT化に取り組んだ。	
③ 若手・中堅職員によるプロジェクトチームを設置し、市制50周年記念事業の企画を市民 会議50の市民委員とともに検討した。また、市制50周年記念イベントを企画実施 するとともに、50周年記念Tシャツのデザインを考案した。	
④ これまでの3つの階層に新たに令和2年度から導入される会計年度任用職員の階層を設 け、9月末までに精査し、来年度実施する研修を決定した。	
III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】	
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）	
IV. 課題と今後の取組み【ACTION】	
課題	いつまでに
課題解決に向け た方向性（案）	

**V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】**

推進会議委員からのコメントをまとめます。

目標(1) まちへの想いを育み、いつまでも 住み続けたいと思えるまちをつくりま

I. 目指す姿【PLAN】	
目標達成に向けての考え方	「いつまでも住み続けたい!」と思える高浜市を未来へとつないでいくために、まちの目指す姿を共有し、市民・地域・行政がそれぞれの力を高め、みんなで連携・協力できる「つながるまちづくり」を進めていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ まちの課題や目標が市民と行政で共有され、市民が市政を身近に感じ、市政に対する関心・理解、満足感が高まっています。</li> <li>◎ 市民のまちへの愛着が高まり、まちのことを「自分ごと」として考え、まちを大切にし、自分にできる“まちづくり”を行っています。</li> <li>◎ 職員一人ひとりが地域課題について考え、市民や地域の想いに寄り添いながら、課題の解決に取り組んでいます。</li> </ul>
目標達成の進捗状況	A:順調 B:一定の進捗あり C:進捗が遅延している D:進捗が大幅に遅れている

目標の達成状況	策定値	実績値 (H30)	実績値 (H31)	実績値 (R2)	実績値 (R3)		
市民意識調査	【設問】まちを愛する想いが育まれ、市民みんなが連携・協力して、まちづくりを行っているまちだと思う (%)						
	62.2	61.8	60.6				
みんなで目指すまちづくり指標	市の情報発信に満足している人の割合 (%)						目標値
	47.3	62.0	60.3			65	
	地域活動に参加したことがある人の割合 (%)						目標値
	62.9	58.6	60.1			70	
市民と一緒にやって地域活動に取り組んでいる職員の割合 (%)						目標値	
54.0	55.0	60.0			66		

こんなことに取り組みます!	(1) 市民と行政がお互いの考えを理解できるよう、積極的な情報発信を行うとともに、対話の場をつくりま。【総合政策グループ】
---------------	---

II. 目標達成のための主な取組み【DO】	
何を・どうした	いつ
① 『広報たかはま』において、市民記者が撮影したものとわかるように撮影者名を明記のうえ写真を掲載し、市民記者の認知度・関心を高めた。若者会議を6回開催し、50周年記念事業について一緒に考えた。	H31 中
② 情報発信の在り方を見直し、情報を伝えたい対象に合った発信方法・内容を充実・強化していくために、4月発行の広報紙から月1回発行に見直し、12月にリニューアルしたホームページを公開した。また、フェイスブックを用いてリアルタイムでの情報発信をおこなった。	R1.12
③ 新しい市公式ホームページを運用するため、10月に職員研修を実施した。	R1.10
④ 市公式ホームページリニューアルと連動した投稿型フェイスブック運用をめざし検討を進めた。	H31 中

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】	
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)	
令和元年度は「広報たかはま」の発行回数の変更・内容充実、市公式ホームページのリニューアルなど、情報発信媒体・環境に対する取り組みを行ってきたが、指標の向上につなげていない。特に20代~50代で昨年より満足度が低下している。広報発行回数の減をまだまだ市公式ホームページの充実で補いきれていないということがあるかもしれない。また発信媒体(手段・方法)を整備するだけでは、市民の皆様の満足度向上にはつながらないということもあると分析している。市民の皆様の満足度を向上していくためには、さらなる取り組みが必要であると考えている。また、指標同士の関連性からも情報発信に対する満足度向上が、市民の皆様への協働への意識向上にもつながると考えている。	

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】		
課題	発信する情報(内容)の充実と情報発信に対する職員の意識向上	いつまでに
課題解決に向けた方向性(案)	◎他自治体や他の雑誌を研究し、広報掲載内容の精査・充実を研究する。	R3.3
	◎ホームページリニューアルの効果検証を行うとともに、各ページのさらなる見やすさの向上や情報の充実を図る。	R3.3
	◎人から人へ拡散するような情報発信の検討を行う。	R3.3
	◎ホームページの改善をテーマにしたホームページの操作研修を新規採用職員向けに実施する。	R2.12

こんなことに取り組みます！	(2) 市民・地域・行政が得意分野を活かし、それぞれのステージで自分たちのできる“まちづくり”に取り組んでいくための環境づくりを進めます。 【総合政策グループ】
---------------	---

## II. 目標達成のための主な取組み【DO】

何を・どうした	いつ
① のびゆく高浜編集委員会と、学校夏季休暇中に話し合いを重ね、『のびゆく高浜』のなかに自治基本条例およびまちづくりに関するページを作成した。若い世代（10代～30代）で構成する「高浜市若者会議」で、市制50周年記念事業を考える会議を6回開催したほか、「高浜市若者会議」で50周年記念テーマソング作成と、地場産業とコラボした“おたかわら”を作成する活動を実施した。	H31 中
② 第6期生5名を新たに任命し、各まち協に新たに1名ずつ派遣した。	H31.4
③ 総合計画推進会議において、後期基本計画（平成30年度）の行政の取組みから見えてきた課題・今後の取組みの方向性を点検・確認した。下半期においては、第7次高浜市総合計画職員プロジェクトを立ち上げ、策定に向けた準備をスタートした。	R1.9
④ 10月にまちづくり協議会および構成団体を交えて、おさいふ会議を開催し、次年度予算・実施事業について話し合った。「地域計画」策定に向けて、準備を進めた。	R1.10

## III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）	
70歳代以上において、参加したことがある人の割合が10%上昇した。これは各まちづくり協議会をはじめとした地域団体の活動のおかげであると考えており、これまでの活動の成果であると考えている。一方で、20歳代・30歳代については50%以下となっている。これからも地域活動が継承されていくためには、若い世代に対するまちづくり参加のきっかけが必要であると考えている。	

## IV. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	いつまでに
◎まずは、まちづくりに関心を持っていただくための仕掛けが必要である。 ◎新型コロナの影響がある中での地域活動継続について検討が必要である。	いつまでに
◎市制50周年記念事業や総合計画の策定など、多くの市民が「自分のまち」の取組みに関心を持っていただけるよう様々なアプローチをしていく。	R3.3
◎まちづくり協議会や町内会など担い手不足や運営方法など、時代の流れにあった在り方について検討していく。	R3.3

こんなことに取り組みます！	(3) 職員のワークライフバランスを考えた「働き方」改革と、職員が地域に関わる“きっかけづくり”から“課題発見・解決”まで段階に応じた成長支援を行います。 【秘書人事グループ】
---------------	---

## II. 目標達成のための主な取組み【DO】

何を・どうした	いつ
① 管理職、主査職等を対象に、業務全般に対する当事者意識や対人関係構築能力を高めるための「オーナーシップ研修」を実施した。	R2.1
② 採用4年目までの若手職員を対象に8月から業務改善研修を実施し、1年目職員にあっては全庁共通業務の改善に取り組み、2年目から4年目までの職員にあっては担当業務のICT化に取り組んだ。	R1.8～
③ 若手・中堅職員によるプロジェクトチームを設置し、市制50周年記念事業の企画を市民会議50の市民委員とともに検討した。また、市制50周年記念イベントを企画実施するとともに、50周年記念Tシャツのデザインを考案した。	H31.4～
④ これまでの3つの階層に新たに令和2年度から導入される会計年度任用職員の階層を設け、9月末までに精査し、来年度実施する研修を決定した。	R1.9-10

## III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>若手職員や中堅職員が消防団、まちづくり協議会特派員などの地域活動に積極的に参加したことや市制50周年記念職員プロジェクトへの参加を通して指標の数値が向上した。</li> <li>目標値の達成に向けては、職員研修を充実させ、職員の意識改革と働き方改革をさらに進める必要がある。</li> </ul>	

## IV. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	いつまでに
「地域で活躍する職員」の育成	いつまでに
◎地域課題の解決に向けて市民と若手・中堅職員が一緒になって取り組む実践研修を計画する。	R3.4-9

## V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

--

目標(2) 将来を見据えた健全な財政運営を行います

Ⅰ. 目指す姿【PLAN】	
目標達成に向けての考え方	今後の財政見通しでは、公共施設の老朽化に係る財政負担、少子高齢化の進展に伴う社会保障関連経費の増加が見込まれ、市の財政運営に大きな影響を及ぼすことが予想されます。そこで、財政運営に関する情報等を市民と共有するとともに、“入るを量りて、出するを制す”の考え方にも留意し、歳入・歳出の両面から財政基盤の強化に取り組むことが欠かせません。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 市の財政運営に対する理解が深まっています。</li> <li>◎ 市税などの財源が確保されるとともに、事業の見直しと重点化により誠に必要な事業が実施され、少子高齢化に見合った持続可能な財政運営が行われています。</li> <li>◎ 機能複合化による公共施設の再編、改修による長寿命化等の取組みが市民に理解され、公共施設総合管理計画が着実に推進されています。</li> </ul>
目標達成の進捗状況	A:順調 B:一定の進捗あり C:進捗が遅延している D:進捗が大幅に遅れている

目標の達成状況	策定値	実績値 (H30)	実績値 (H31)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	
市民意識調査	【設問】 将来を見据えた財政運営を行っているまちだと思う。(%)					
	46.6	45.1	46.7			
みんなで目指すまちづくり指標	経常収支比率 (%)					目標値
	88.8	89.3	88.3			80 台維持
	将来を見据えた財政運営が行われていると思う人の割合 (%)					目標値
	46.6	45.1	46.7			55

こんなことに取り組みます！	(1) 市の財政運営や税金に関する情報など、市民の知りたい財政情報を積極的にわかりやすく発信します。【財務グループ】
---------------	--

Ⅱ. 目標達成のための主な取組み【DO】	
何を・どうした	いつ
① 中学生にむけた情報発信を充実させるため、南中学校3年生を対象とした「財政出前授業」を新たに開催した。	R1.9
② 市民や中学生が求める財政情報を発信するため、「財政出前授業」の際に『中学生が知りたい財政情報』についてアンケートを行い、アンケートの質問に答える「財政だより」を作成し、公表した。	R2.3
③ 「財政出前授業」の開催や「財政だより」の発行を加えた「財政情報発信計画(案)」を作成し、計画に基づき、情報を発信した。	H31.4~R2.3

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民意識調査の結果は、過去3年間で最も高い46.7%(前年比+1.6ポイント)となった。要因は、若年層及び高齢層の率の上昇。特に10歳代では、前年比24.3ポイント増の55.6%となった。</li> <li>・若年層をターゲットとした取組み、具体的には「財政出前授業」が効果的であることが分かった。今後は、中年層(20,30歳代)へのアプローチの手法について検討する必要がある。</li> </ul>	

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	いつまでに
中年層(20,30歳代)への効果的な財政情報の発信 ◎中年層の関心を高めるための取組みや手法について、先進地事例なども含めて検討し、段階的、若しくは試行的に実施する。	R3.3

こんなことに取り組みます！	(2) 工業用地の創出、市税徴収力の強化、受益者負担の適正化など、財源の確保に努めるとともに、真に必要な事業を見極め、限りある財源のより効率的・効果的な活用に取り組みます。【財務グループ】【ICT推進グループ】
---------------	---

## II. 目標達成のための主な取組み【DO】

何を・どうした	いつ
① 市議会に使用料・手数料条例の改定案を上程し可決された。また、次の改定に備え、使用料見直しマニュアルの作成に着手した。	R1.12~R2.3
② 市役所及びいきいき広場に窓口用5台、各小中学校に各2台の計22台の翻訳機を整備した。	H31.4
③ 職員PC、紙資料の電子化のための複合機を導入しペーパーレス化の環境を整えた。	R1.10
④ RPA 導入に向けた実証実験を、税務グループの特別徴収異動届、還付口座管理、法人番号管理事務の業務で実施した。	R1.8
⑤ 室内の温度、湿度、動きをモニターできる高齢者見守りサービスの実証実験を市営住宅で実施した。また、公衆無線LANの活用も検討した。	R1.6~9

## III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)
・限りある財源のより効率的・効果的な活用のためICT技術を用いた様々な実験を行ったものの、いずれも試行的な事業であるため、「市民意識調査」などの指標の向上に影響するレベルに至っていない。

## IV. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	費用対効果を検証しながらのICT技術の導入	いつまでに
課題解決に向けた方向性(案)	職員PCの更新、紙資料の電子化のための複合機を導入、庁内Wi-Fiの整備などICTを活用するための環境整備が整ったことから、費用対効果を検証しながらRPA、AI技術などのICTを活用した事業展開を図る。	R3.3

こんなことに取り組みます！	(3) 公共施設の再編や長寿命化に対する市民の理解を高めるとともに、順次、個別施設計画を策定し、公共施設総合管理計画の着実な推進につなげます。 【財務グループ】【学校経営G】
---------------	--

## II. 目標達成のための主な取組み【DO】

何を・どうした	いつ
① 「令和元年度公共施設推進プランスケジュール」及び「令和2年度版公共施設・インフラ施設推進プラン」公表した。	R1.6、R2.3
② 施設所管部局と「公共施設推進プラン」の進捗状況について情報共有を行った。また、公共施設マネジメント推進委員会を開催し、施設のあり方等について、委員会から助言等を受けた。	H31.4~R2.3
③ 吉浜小学校、高取小学校、港小学校の長寿命化計画について検討を行った。	R1.5~R2.3
④ 高取小学校の調査・検討を行い、大規模改造工事の基本設計を作成した。	R1.5~R2.3

## III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)
・市民意識調査の結果は、過去3年間で最も高い46.7%(前年比+1.6ポイント)となった。 ・要因は、若年層及び高齢層の率の上昇。特に10歳代では、前年比24.3ポイント増の55.6%となった。 ・引き続き、将来を見据えた財政運営のもと、公共施設の大規模改修や建替えを計画的に行っていく必要がある。

## IV. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	◎長寿命化計画の策定のため、小中学校を健全な状態で維持していくためのトータルコストを把握し、現状を踏まえた学校施設の使用目標年数を定める必要がある。 ◎高取小学校大規模改造事業の概算工事費を算出し、改修内容を決定する必要がある。	いつまでに
課題解決に向けた方向性(案)	◎学校施設の使用目標年数を決定し、目標年数まで維持していくことを想定した学校施設の長寿命化計画を策定する。 ◎高取小学校大規模改造事業の概算工事費を算出した上で、必要な工事を実施設計に反映させる。	R3.3 R2.9

## V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

--

## 目標(3) 学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちのチカラを育みます

I. 目指す姿【PLAN】	
目標達成に向けての考え方	学び・文化・スポーツは、人づくりやまちづくりの土台となるものです。市民・地域・関係機関・事業者と連携し、学びなどを通して市民同士が個々の力を高め合うとともに、つながりを深めながら「高浜市が好き」「誰かのために役立ちたい」「住んでいるまちをよりよくしたい」といったまちづくりの原動力を育てていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 個人が培ってきた知恵・特技・体験などが、人づくりやまちづくりに活かされ、子ども・若者や大人がともに成長しています。</li> <li>◎ 学び・文化・スポーツ活動を通して市民同士の交流が深まり、「高浜市が好き」「市民や地域のために何かやってみたい」という市民が増えています。</li> <li>◎ 先人たちのあゆみやまちの魅力・自慢が市民共有の財産として継承され、まちづくりに活かされています。</li> </ul>
目標達成の進捗状況	A:順調 <b>B:一定の進捗あり</b> C:進捗が遅延している D:進捗が大幅に遅れている

目標の達成状況	策定値	実績値 (H30)	実績値 (H31)	実績値 (R2)	実績値 (R3)		
市民意識調査	【設問】学び(生涯学習やスポーツなど)を通して、人と人がつながり、まちづくりを担う人が育っているまちだと思う(%)						
	55.2	53.4	54.6				
みんなで目指すまちづくり指標	高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合(%)						目標値
	71.4	66.4	67.7			76	
	将来の夢・希望・目標を持っている子どもの割合(%)						目標値
	76.1	75.8	69.6			81	
	持っている知識・特技・体験などを地域や社会活動に活かしている人の割合(%)						目標値
	28.5	27.9	30.3			35	

こんなことに取り組みます!	(1) 市民とともにまちの魅力・自慢(歴史・文化・伝統・産業・景観など)を掘り起こし、守り、伝え、活かしていく活動を強化します。【文化スポーツグループ】
---------------	--

II. 目標達成のための主な取組み【DO】	
何を・どうした	いつ
① 広報たかはまの裏表紙に「たかはまアーカイブ」を毎号掲載した。	H31.4-R2.3
② 生活誌部会が行った調査の成果を『高浜市のあゆみ』資料③としてまとめた。また、調査を行った名古屋市立大学の学生による成果報告会を実施した。	R1.6-R2.3
③ まるごと宝箱事業との連携講座を年3回開催し、資料整理の成果に基づいた内容を実施。	R1.6-R2.1
④ 近代(主に明治～戦中)のやきものをテーマにした、「たかはま歴史まちづくりシンポジウム」の第2弾を開催した。	R2.2.8

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】	
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)	
「高浜市に愛着・誇りを持っている人の割合」と「持っている知識・特技・体験などを地域や社会活動に活かしている人の割合」ともに前年度実績値を上回っている。これは、広報たかはまの「たかはまアーカイブ」毎号掲載したことやまるごと宝箱での学び合い・語り合いを開催したことなどが要因と考えられる。 今後は、令和2年度内に刊行する市誌そのものや編さん過程で集まった多くの資料を活用し、市民に披露する場を設ける必要がある。資料整理などを通して、市の歴史や文化を後世に伝えるための人材発掘・育成も合わせて行っていく必要がある。	

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】		
課題	いつまでに	
課題解決に向けた方向性(案)	より多くの市民に市の歴史や文化に興味、関心をもってもらおう。	
	◎ 市誌編さん委員会の体制を検討する。	R2.10
	◎ 高浜市のあゆみ資料第4弾の発行、たかはま歴史・まちづくりシンポジウムを開催する。	R3.3
	◎ かわら美術館展示や図書館企画における、市誌編さんの調査や資料整理で得たデータを活用する。(ex: かわら美術館での細工人形展示パネル、図書館「広報でふりかえる50年」でのデータ活用)	R2.9



こんなことに取 り組みます！	(2) 市民（特に子ども・若者）の「知りたい」「やってみたい」「役立ちたい」を応援し、市民同士が学び合い、高め合う場づくりを進めます。【文化スポーツグループ】
-------------------	---

## II. 目標達成のための主な取組み【DO】

何を・どうした	いつ
【図書館】 ① 「図書館のあり方を考える会」を7回開催し、図書館ボランティアと意見交換を行ったとともに、図書館運営の今後の方向性について利用分析やこれまでのあゆみをまとめた。	H31.4-
② 移転に伴う効果や建築的な制約についての助言を業者から求めるための委託契約を締結した。また図書館運営のあり方についてのアドバイスを有識者から受けるとともに、市民を交えたフォーラム（案）を企画した。	R2.1-
③ 学習支援を目的とした事業を随時開催した。	H31.4-
【美術館】 ④ 展覧会の関連事業としてワークショップなどの企画や市民が主体となって企画した事業や8月8日屋根の日に三州瓦工業協同組合と協力した事業などを開催した。	H31.4-

## III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）

「将来の夢・希望・目標を持っている子ども」の割合が減少している。内訳を見ると、学年があがるにつれ割合が減少している。  
 こどもたちに対して、図書館では、「なに？なに？発見隊バック」の貸出しのように好奇心や学ぶ意欲が高まるような機会を設け、美術館では「びじゅつかんにまどにおもいきりお絵かきしちやおう！」のようにこどもたちが主役となって日常では経験できないような場を提供しているが、引続きこどもたちの好奇心や意欲が高まるような事業を開催し、こどもたちの将来の夢・希望・目標達成に少しでも近づけるよう、こどもたちの成長の幅を広げることにつなげていく必要がある。

## IV. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	こどもの好奇心や意欲を高める機会をさらに増やす。	いつまでに
課題解決に向けた方向性（案）	◎図書館のあり方について、多角的な意見を集約しながら機能移転先を引続き検討するとともに、市民交流や課題解決型図書館を目指した取組を進める。	随時
	◎図書館、美術館において、こどもたちが主役となる参加型のイベントを開催する。	随時
	◎図書館、美術館の次期運営主体を募集、決定し、次期運営の準備をする。	R3.3

こんなことに取 り組みます！	(3) 「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも」気軽に楽しめるスポーツ・レクリエーションの機会をつくり、市民交流の場を充実します。【文化スポーツグループ】
-------------------	---

## II. 目標達成のための主な取組み【DO】

何を・どうした	いつ
① 東京2020オリンピック・パラリンピック聖火ランナー等への参加に手を挙げ、準備を行った。	H31.4-R2.3
② 体育センター解体工事に向けて各種調査、設計を実施した。	R1.5-11
③ 高浜市スポーツ協会等八体育センター等機能移転先である地域交流施設（たかびあ）のメインアリーナ、サブアリーナの概要を伝え、意見交換を行った。	R1.6-
④ 勤労青少年ホーム跡地活用事業について、民間事業者がプール・スポーツジム施設運営のスタート及びテニスコート施設の供用を開始した。	プール等 H31.4 テニス R1.8

## III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）

「持っている知識・特技・体験などを地域や社会活動に生かしている人の割合」が策定値及び前年度実績値を上回り、これまでと比較し最高値となっている。  
 スポーツに関わるあらゆる機会を通じて、「教える・教えられる」場や一緒に楽しむ場があったことが影響していると考えられる。  
 地域交流施設の2期オープンにあたっては、スポーツ・レクリエーションの場をさらに多くの方に提供できるように、円滑な運営をしていく必要がある。

## IV. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	地域交流施設の利用促進のための周知	いつまでに
課題解決に向けた方向性（案）	◎複合施設として効果を発揮できるよう関係団体や運営事業者等と意見交換を行い、運営方法を決定する。	R2.12
	◎体育センター機能を移転し、サブアリーナをオープンする。	R3.1
	◎円滑な機能移転ができるよう体育センター定期利用者に対する周知を行う。また、広報、HPのほか、各種会合の場において、パンフレットを配布・説明するなどの周知を行う。	R2.11

## V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

--

目標（４）学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます

I. 目指す姿【PLAN】	
目標達成に向けての考え方	学校、家庭、地域が「子どもの学びや育ちをつなげる」という意識をもち、力を合わせます。
目標が達成された姿	◎ 子どもが、自分の成長に気づいたり、目標を抱いたりしています。 ◎ 子どもが、地域に関心をもち、自分ができることを考え、実践しています。 ◎ 子どもが、主体的・対話的で深い学びをしています。 ◎ 子どもが、個に応じた教育を受け、個性を伸ばさせています。
目標達成の進捗状況	A:順調 B:一定の進捗あり C:進捗が遅延している D:進捗が大幅に遅れている

目標の達成状況	策定値	実績値（H30）	実績値（H31）	実績値（R2）	実績値（R3）		
市民意識調査	【設問】学校・家庭・地域が連携し、子どもの12年間（4歳～15歳）の学びや育ちを育む体制が整っているまちだと思う（％）						
	58.8	62.0	64.0				
みんなで目指すまちづくり指標	自分の周りのよさを認める子どもの割合（％）						目標値
	78.5	90.3	88.1			85	
	地域や社会に関心をもつ子どもの割合（％）						目標値
	59.2	74.5	71.9			70	
	学習が将来、役立つと感じている子どもの割合（％）						目標値
	76.7	80.4	77.3			85	

こんなことに取り組みます！	（１）異校種間連携事業で、自分や周りのよさに気づいたり、よさを活かしたりできるよう、支援します。また、異校種参観で教師力を向上させ、子どものよさを引き出す指導を展開します。【学校経営グループ】
---------------	--

II. 目標達成のための主な取組み【DO】		
	何を・どうした	いつ
①	異校種参観を開始。これまで参観できていない異校種の教員が参観を行うことができた。	R1.5～R2.1
②	異校種間連携推進委員会において、連携して実践できる、より主体的な取組について検討した。	R2.2
③	中1アンケートを行い、データを集約し各校へ分析の依頼をした。	R1.6～7

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）	
<p>・幼・保育園と小学校、小学校と中学校の異校種間連携事業や異校種参観が定着したため、教師が園児児童生徒の発達段階を把握することができ、その子の発達段階に応じた資質・能力を身につける指導ができるようになった。それが、子どもにとっては、学習における達成感につながり、「学習が将来、役立つと感じる子ども」の割合が77.3％という結果になった。また、中1アンケートにおいても、この先とまどうことが起こったときは、「これまでの勉強や経験を通して、乗り越えられる」「周りに聞いたり助けを求めたりして対処したい」と回答した生徒が90.6％であったことから学校における学習が将来、役立つと感じていることが分かる。</p> <p>・目標値85％を達成するために、教職員中心の活動をより充実させて、子ども中心の活動に生かしていくことが子どもが自ら自分のよさや周りのよさに気づき、よさを活かそうとすることにつながると考える。</p>	

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】		
課題	異校種間連携事業や異校種参観の見直し	いつまでに
課題解決に向けた方向性（案）	◎子ども中心の活動が子ども主体でできるように教科指導とマネジメントをする。	R3.3
	◎子ども中心の活動については系統性を意識した取組を効果的に進め、自分の成長を感じられるようにする。	R3.3
	◎引き続き、全職員が異校種参観を経験できるように参観していない教職員を中心に参観の機会を設定する。	R2.9～R3.2
	◎参観の視点を例示したり、指導方法について意見交流をする時間を確保したりするなど、参観後の活用の仕方を見直す。	R2.9～R3.2

こんなことに取り組みます！	<p>(2) 高浜カリキュラムで、高浜の人・もの・ことを活かした教育を実践します。また、活用型のカレンダーを使って「高浜市が育てていきたい子どもの姿」を周知します。</p> <p>(3) 高浜カリキュラム教科版で、優れた授業実践案を集約・活用したり、ICTを活用した授業や、高浜版プログラミング教育を実践したりして、主体的・対話的で深い学びを支援します。【学校経営グループ】</p>
<b>Ⅱ. 目標達成のための主な取組み【DO】</b>	
何を・どうした	
① ロボットプログラミングキットやプログラミング教育支援員を導入し、各小学校の教育環境の整備を行った。モデル校において低学年・高学年対象の先行授業を行った。また、全小学校の中学年において、スクラッチを用いた高浜版プログラミング教育を行った。	R1.9~R2.3
② 高浜版 CAN-DO リストを小中学校の教員に配付し、児童生徒用の高浜版 CAN-DO リストが完成した。また、夏期研修で、CAN-DO リストの活用における研修を設定し、教員の外国語教育への意識を高めた。	R1.7
③ 「高浜カリキュラム」「高浜カリキュラム教科版」の実践を各校で行い、指導案を集約し、個々の教員の実践に活かすことができるようにした。	R1.5
④ 市内に通う園児・小学生・中学生全員に1冊ずつのカレンダーを配付し、各校で「高浜市が育てていきたい子どもの姿」に向けた実践を行った。	H31.4
<b>Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】</b>	
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>市民意識調査が64.0%に上昇したのは、平成30年度より3歳以上の子ども全員に「高浜市が育てていきたい生活習慣・学習習慣」カレンダーを配付したことで、12年間で育てていきたい子どもの姿を目指して、園・学校、家庭、地域の三者一体で取り組んでいることが市民に情報発信できたからである。また、カレンダーの配付後は、定期的にPTA 総会や学校・学年だよりなどで周知を繰り返すことで、学校や家庭、地域がより意識を高め、実践につながっていると考える。</li> <li>児童・生徒の意識や行動に関するアンケートの「高浜のひと・もの・ことに関心」が全体で75.8%であった。高浜カリキュラムにおいて、地域の人やもの、ことを活用した学習を教員が毎年見直しを図りながら、取り組んでいる成果であると言える。また、平成30年度よりプログラミング教育、外国語活動において、カリキュラムの検討を進め、実践を重ねることができた。今後も新たなカリキュラムの導入のため、周知と活用を図るとともに社会の情勢、子どもの実態を捉え、新たな教育に対応できる教員を育てていくことが、地域や社会に関心をもつ子につながっていくと考える。</li> </ul>	
<b>Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】</b>	
課題	新たなカリキュラムの導入のため、周知と活用を図る。
課題解決に向けた方向性（案）	<p>◎外国語教育を推進するために作成した、小中連携の市内統一 CAN-DO リストを活用した授業実践に取り組む。</p> <p>◎高浜版プログラミング教育については、ICT 教育環境の整備を進め、全小学校で授業を実践する。また、先行モデル授業を積み重ね、全体カリキュラムを完成させる。「高浜カリキュラム教科版」にICT 活用実践や教員が必要とする分野の実践を集約・周知する。</p>
いつまでに	R3.3

こんなことに取り組みます！	<p>(4) 支援の必要な児童生徒の特別支援ファイルの作成と引継を確実に行うシステムを構築します。また、教職員の特別支援教育への理解をより深めるとともに、指導力・実践力の向上をめざした研修を充実します。【学校経営グループ】</p>
<b>Ⅱ. 目標達成のための主な取組み【DO】</b>	
何を・どうした	
① 特別支援教育コーディネーター会で、本年度の特別支援ファイルの形式や、作成方法について話し合った。保護者が記入するページについては、内容を精選したが今後も検討を重ねていく。	H31.4
② 特別支援ファイルの引継ぎ方法について検討し、支援情報の積み重ねが大切であることを確認した。今年度も幼保と小、小と中、中と高の情報交換を行った。	H31.4
③ 市内中学校と高浜高等学校との中高連絡会を実施することで支援情報が確実に引継ぎされるよさを確認し、今年度も実施した。今後、地元以外の高校にもどのように支援情報を引き継ぐべきかを検討した。	R1.11、2.1 R2.3
④ 2年目・3年目教員を対象に座学の研修と体験研修を行った。また、支援員対象の研修・通級担当者研修をそれぞれ実施した。さらに、特別支援学級担当教員研修をこども発達センターと共同開催で実施した。	R1.7

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】		
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）		
<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度も支援が必要な子に対して、特別支援ファイルを作成し、次年度への引き継ぎを確実に行った。継続した支援は、子どもにとって安心感や自信をもつことにつながった。</li> <li>特別支援についてさまざまな教員を対象に研修を行っている。令和元年度は南中学校に通級指導教室が設置され、市内全部の小中学校に通級指導教室がある状況となった。担当者研修を年3回開き、支援の方法を話し合い、指導力向上を図ることができた。研修を受けることで、個に応じた指導を学校で展開しているため、子どもの自己肯定感・有用感を高め、自分のよさに気付いた子は周りのよさも認められるようになったと考えられる。</li> </ul>		
Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】		
課題	個のニーズに応じた教育の充実	いつまでに
課題解決に向けた方向性（案）	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎特別支援ファイルについて、活用する学校に調査を行い、改良の準備や周知の方法を検討する。</li> <li>◎卒業後の支援を充実させるため、市外高等学校との支援情報の引き継ぎについて実施を進める。</li> <li>◎一般教員の研修を計画・実施する。</li> </ul>	R3.3

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

<div style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; background-color: yellow; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p><b>推進会議委員からのコメントをまとめます。</b></p> </div>
---



## 目標（5）子育て・子育てを支える環境を整えます

I. 目指す姿【PLAN】	
目標達成に向けての考え方	行政、地域、保護者の職場となる企業なども積極的に関わり、子どもが健やかに遊び、成長し、また、保護者が安心して子どもを産み育てることができるよう、子育て・子育てを総合的に支援する環境を整えていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 安心して子どもを産み育てられる教育・保育環境や保護者が働く職場環境が整っています。</li> <li>◎ 身近な大人をはじめ、市内の大人が子どもの目線を大切にし、子どもの遊びや成長を温かく見守る視点が常に共有されています。</li> <li>◎ 日頃から子どもが気軽に集え、自然に世代間交流ができ、子どもがのびのびと活動できる身近な場所が整っています。</li> </ul>
目標達成の進捗状況	A:順調 B:一定の進捗あり C:進捗が遅延している D:進捗が大幅に遅れている

目標の達成状況	策定値	実績値（H30）	実績値（H31）	実績値（R2）	実績値（R3）		
市民意識調査	【設問】子育て・子育てを支える環境が整っているまちだと思う（％）						
	54.7	55.5	60.5				
みんなで目指すまちづくり指標	子どもを産み育てやすいと感じている人の割合（％）						目標値
	66.0	65.9	64.4			70	
	子どもに対して理解のある大人の割合（％）						目標値
	66.2	70.1	72.0			94	
	待機児童数（人）						目標値
	17	19	11			0	

こんなことに取り組みます！	（1）「高浜市子ども・子育て支援事業計画」に沿って、多様で柔軟な保育サービスの提供など、教育・保育ニーズに対応し、待機児童ゼロをめざします。【こども育成グループ】
---------------	---

II. 目標達成のための主な取組み【DO】	
何を・どうした	いつ
① 第2期高浜市子ども・子育て支援事業計画を策定した。	R2.3
② 令和2年4月1日開園に向けて高浜幼稚園の民営化及びこども園化の準備を進めた。	～R2.3
③ 吉浜幼稚園の空き教室を活用した小規模保育事業（1，2歳児定員15名）の運営を開始した。	R1.6

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】	
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）	
「みんなで目指すまちづくり指標」における「子どもを産み育てやすいと感じている人の割合」は横ばいだが、「子どもに対して理解のある大人の割合」は増加している状況で、「市民意識調査」の値は増加していることから鑑みると、人的環境を要因として子育て・子育てを支える環境に係る「市民意識調査」の値が増加していることと見込むことができる。横ばいになっている「子どもを産み育てやすいと感じている人の割合」の増加をさせることで相乗効果として更なる「市民意識調査」の値の増加が見込まれる。そのためには、子どもを産み育てやすいという意識に直結する要因となる待機児童への更なる対応を進める必要がある。	

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】		
課題		いつまでに
課題解決に向けた方向性（案）	3歳未満児で発生している待機児童への対応 子ども・子育て支援事業計画でも示しているように3歳未満児で発生している待機児童への対応としては、将来的な子どもの減少にも柔軟に対応できる家庭的保育等の地域型保育事業による受け入れ枠の拡充を検討する。	令和3年度末までに

こんなことに取り組みます！	(2) 子どもの想いを理解し、子どもの視点に立って、子育て・子育てを支える大人を増やしていきます。(3) 身近な場所に、子どもの自主性・社会性をはぐくめるよう、自然に世代間や異年齢交流などができる場を増やしていきます。【こども育成グループ】	
<b>Ⅱ. 目標達成のための主な取組み【DO】</b>		
	何を・どうした	いつ
① 子育て家族支援者養成講座や地域向け子育て支援講座を予定通り実施した ② ポータルサイトを適正に管理し、メールマガジンを随時配信して子育て支援情報を子育て家庭が簡単に入手できる環境づくりを実施した。		~R2.3 ~R2.3
<b>Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】</b>		
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)		
「みんなで目指すまちづくり指標」における「子どもを産み育てやすいと感じている人の割合」は横ばいだが、「子どもに対して理解のある大人の割合」は増加している状況で、「市民意識調査」の値は増加していることから鑑みると、人的環境を要因として子育て・子育てを支える環境に係る「市民意識調査」の値が増加していると見込むことができる。人的環境は市民意識としても子育て・子育てを支える環境の充実に直結する要因であることの現れであるので、更にその推進を図る必要がある。		
<b>Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】</b>		
課題	新たな人材の掘り起こしと活躍の場のマッチング	いつまでに
課題解決に向けた方向性(案)	現在、子育て支援に関わる活動をされている方々についてもずっと活動できるわけではないため、その活動を受け継ぐ人材を掘り起こす必要があるし、新たな子育て支援の活動を展開する場合もニーズの把握やその周知が重要となってくるので、引き続き、講座等により子育て支援の活動に興味がある人材の掘り起こしや活躍の場の確保及び子育て支援情報の適切な周知等に努めていく。	令和3年度末までに(継続)

## V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

--

目標(6) 産業を活性化して、まちを元気にします

I. 目指す姿【PLAN】	
目標達成に向けての考え方	産業は、まちに活力を生み出し、市民の働く場の確保や所得を得て、消費の場となるなど、安定した市民生活を支える基盤です。優良農地の保全をしつつ、地場産業の振興、企業誘致の促進、企業や事業者の新たな取組みや意欲・挑戦を応援していきます。
目標が達成された姿	◎ 産業活動が活発に行われ、市内の雇用が安定しています。 ◎ 市内事業者の受注機会が増え、売り上げが増加しています。 ◎ 市民が地域資源を掘り起こし、新たな視点も加え、まちの魅力を高めています。 ◎ まちの魅力に触れようと市内外から多くの人々が訪れてきています。
目標達成の進捗状況	A:順調 B:一定の進捗あり C:進捗が遅延している D:進捗が大幅に遅れている

目標の達成状況	策定値	実績値 (H30)	実績値 (H31)	実績値 (R2)	実績値 (R3)		
市民意識調査	【設問】産業が活性化して、まちが元気になっていると思う(%)						
	21.0	27.7	26.7				
みんなで目指すまちづくり指標	市内の法人数(社)						目標値
	919	937	946			930	
	行政がかかわるイベントの来場者数(人)						目標値
	86,000	89,000	68,000			100,000	
	製造品出荷額等(億円)						目標値
	5,123.5	4,465.8	5,680.1			6227.7	

こんなことに取り組みます!	(1) 農地とのバランスを考慮しつつ新たな工業用地を創出し、企業誘致を進めるとともに、既存企業の投資意欲を高める支援策を推進します。 【都市計画グループ】【経済環境グループ】
---------------	--

II. 目標達成のための主な取組み【DO】	
何を・どうした	いつ
① 豊田町地区の進出企業に、工場の建設に向けた許認可に対する手続き支援や工場建設に伴う補助金等の申請手続きなどの支援を実施した。	H31.4 R1.8
② 小池町地区の早期造成工事の着手に向け、関係者や関係機関と協議・調整を実施した。	
③ JA あいち中央産直振興課によるジャンボ落花生栽培講習会を開催した。	R1.8-10
④ 農用地利用改善組合による県外での先進地視察によりジャンボ落花生の生産システムを学習した。	R1.5-10
⑤ 試作品の開発に向け農村生活アドバイザーと打合せをした。	
⑥ JA あいち中央に加工品に可能なジャンボ落花生の収穫量を確保していただくよう依頼し、市内食品事業者と打合せをした。	

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】	
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)	
市内の法人数は年々増加しており、産業が活性化してまちが元気になっていると思う市民も増加傾向にある。引き続き工業用地の創出と企業誘致を農地とのバランスを取りながら進めていく必要がある。	

課題と今後の取組み【ACTION】	
課題	◎小池町地区の早期造成工事の着手に向け、引き続き、関係者や関係機関と協議・調整を進める必要がある。 ◎ジャンボ落花生の加工品用の収穫量を確保するためには、耕作面積の拡大が必要である。 ◎生産者による品質のばらつきが無く、ブランド品として、高い品質の構築が必要である。
課題解決に向けた方向性(案)	◎小池町地区の早期造成工事の着手に向け、関係者や関係機関と協議・調整を実施する。 ◎JAあいち中央と連携し、ジャンボ落花生生産者の増加と、耕作面積の拡大を図り、安定した生産量を確保する。 ◎複数の土壌分析により、栽培実施と結果を検証し、栽培方法の統一化により、高い品質の構築を図る。



こんなことに取り組みます！	(2) 災害による風評被害の払しょくや伝統性を活かした商品開発、ブランド化など、地場産業である三州瓦の優位性やデザイン性をPRするため、「高浜市みんなで三州瓦をひろめよう条例」を推進します。【経済環境グループ】	
<b>II. 目標達成のための主な取組み【DO】</b>		
	何を・どうした	いつ
①	経産大臣指定「伝統的工芸品」の指定を受けたことにより三州瓦工業協同組合（伝統的工芸品産業部会）内で検討し、伝統的工芸品表示事業に取り組んだ。	H31.4～
②	愛知県陶器瓦工業組合より、屋根の日（8月8日）において、三州瓦公式応援サポーターがラジオ番組内で三州瓦の耐震に関する情報や魅力を紹介した。	R1.8
③	瓦の国外へのPRとして、愛知県陶器瓦工業組合が、4月から6月の間、中部国際空港内出発ロビーショーケースに「金鯨瓦」を展示し、8月に開業した国際展示場 AICHI SKY EXPO（アichi Sky Expo）のオープニングイベントで鬼瓦を展示した。	H31.4-8
<b>III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】</b>		
「市民意識調査」「みんな目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）		
市民意識調査では、産業が活性化してまちが元気になっていると思う、と回答した市民が26.7%いる一方、そうは思わないと回答した市民も25.9%いる。今後、産業を活性化させていくためには、ブランド化、伝統産業としての価値の創出が必要である。また、屋根材としての瓦の優位性の効果的なPRも必要である。		
<b>IV. 課題と今後の取組み【ACTION】</b>		
課題	◎ブランド化、伝統産業としての価値の創出をするために、瓦産業の承継に加え、瓦製品の付加価値を向上させ、製造業者の経営安定に向けた検討をする必要がある。 ◎継続的に屋根材としての瓦の優位性を、効果的にPRを行う必要がある。	いつまでに
課題解決に向けた方向性（案）	◎瓦産業の技術承継及び屋根葺き技術の保持に対する業界の取組みに対する支援とブランド力（伝統産品としての販売力）の向上に対する協力をする。 ◎業界による屋根材の優位性の周知・PRに対する支援を行う。	R3.3

こんなことに取り組みます！	(3) 高浜高校SBPを支援し、高浜市の産業を全国的にPRするなど、ビジネス手法を用いた若い世代の育成支援をします。【経済環境グループ】	
<b>II. 目標達成のための主な取組み【DO】</b>		
	何を・どうした	いつ
①	高浜市の産業（瓦産業・自動車産業）の良さを発信するとともに、高浜市の子どもたちと一緒に笑顔になることを目指し、プロバスケットボールチーム「シーホース三河」と連携を図り、「タツヲ焼きプロジェクト」を実施した。	R1.10～ 【試合観戦は中止】
②	Sの絆焼きの全国展開を図るため、北海道留萌高校、三重県相可高校、熊本県天草拓心高校等とSBP事業交流を図った。また、三重県で開催された第4回全国高校生SBP交流フェア、東京都で開催された(株)ベネッセコーポレーション主催の「School Maker Fair」及び文部科学省に表敬訪問を行い、高浜高校SBPが取り組んでいる事業の情報発信を図った。	R1.5～
③	ガバメントクラウドファンディング（高浜市応援ふるさと寄付金）の返礼品として、高浜市の素晴らしい商品や文化を詰め合わせた「セレクトギフト」を開発した。	R1.9～
<b>III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】</b>		
「市民意識調査」「みんな目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）		
タツヲ焼きプロジェクトでは、全国のプロバスケットボールファンから、高校生たちの純粋な想いと行動力にたくさんのあたたかい応援をいただくことができた。そして、その応援に必死に答えようとする高校生たちの素敵な成長がまちの元気に繋がりはじめている。		
<b>IV. 課題と今後の取組み【ACTION】</b>		
課題	全国から高浜高校SBPに対し、いろいろな取組みを一緒にやりたいとお声をいただいているが、新型コロナウイルス感染拡大により、全てのことに取り組むことが困難な状況である。	いつまでに
課題解決に向けた方向性（案）	このような状況下でも、決して諦めるのではなく「いまだからこそできること」を考え、行動に移すことで、さらなる高校生たちの成長に繋げる。高校生たちの素敵な成長こそが、まちの元気を創出する大きな力になる。	すぐに

基本目標Ⅲ 明日を生み出すエネルギー やる気を活かせるまちをつくろう

こんなことに取り組みます！	(4) 高浜市観光協会や関連団体が行うイベントや高浜市のPRに対し人的支援、活動支援をします。【経済環境グループ】	
<b>Ⅱ. 目標達成のための主な取組み【DO】</b>		
	何を・どうした	いつ
①	高浜市観光協会が衣浦定住自立圏主催のイベント（於大まつり・名鉄ハイキング・わんさか祭り・JR さわやかウォーキング）への出展を行った。西三河広域観光推進協議会のブース出展委託イベント（第20回知立よいとこ祭り・第14回安祥文化の里まつり）で、高浜市の紹介チラシを配布した。	H31.4～
②	高浜市観光案内所の営業日、営業時間を高浜市観光協会が見直し、経費節減に努めた。	H31.4～
③	10月19日に開催された「第18回鬼みちまつり」を支援した。	R1.10
<b>Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】</b>		
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）		
まちが元気になっていると回答した市民の数がほぼ横ばいといった状況下において、まちに活気をもたらすためには、集約した観光資源を市内外へ情報発信する必要がある。		
<b>Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】</b>		
課題	◎市内各団体が保有する観光資源を観光協会へ集約する必要がある。 ◎観光協会の会員（法人会員）の獲得と、それに見合う機能（法人会員の商品の情報発信・ステージの提供）を観光協会が備える必要がある。	いつまでに
課題解決に向けた方向性（案）	◎市内特産品の更なる発掘・とりまとめ・カタログ化を推進する。 ◎集約した特産品を観光案内所・HP・SNS・マスメディア等で紹介し、併せて市内販売店の案内を行う。 ◎市内特産品の発掘に伴い、商品のPRのため、観光協会会員への登録を依頼する。	R3.3

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

--

## 目標(7) みんなでまちをきれいにします

I. 目指す姿【PLAN】	
目標達成に向けての考え方	人類の共有財産である地球環境を守るため、一人ひとりが地球環境に対する意識を高め、地域・学校・事業者・関係機関と協力して環境に配慮した取組みを実践し、環境の負荷が少ない、快適できれいなまちを次世代に引き継ぎます。
目標が達成された姿	◎ 地球環境から身近な生活環境まで、環境に配慮して行動する市民、事業者が増えています。 ◎ ごみをつくらない(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)の3R活動が推進され、ごみの減量化が図られています。 ◎ 道路や公園などに、ごみの散乱がなく、きれいで住みやすいまちになっています。
目標達成の進捗状況	A:順調 B:一定の進捗あり C:進捗が遅延している D:進捗が大幅に遅れている

目標の達成状況	策定値	実績値(H30)	実績値(H31)	実績値(R2)	実績値(R3)	
市民意識調査	【設問】みんなで環境美化・保全に取り組んでおり、きれいなまちだと思う(%)					
	66.2	65.6	69.2			
みんなで目指すまちづくり指標	日ごろから省資源や省エネなど環境に配慮した生活をしている人の割合(%)					目標値
	77.9	75.2	77.1			85
	1人1日あたりの家庭ごみの排出量(g)					目標値
	540	564	539			490
	市民一斉清掃や地域・企業での清掃活動に参加したことがある人の割合(%)					目標値
	60.4	59.6	58.0			71

こんなことに取り組みます!	(1) 地域・学校・事業者・関係機関と連携した環境保全活動に取り組みます。(2) 循環型社会の構築に向け、資源ごみのリサイクルを進め、ごみの減量化に取り組みます。(3) 「高浜市みんなでまちをきれいにしよう条例」を推進し、環境美化活動を進めます。 【経済環境グループ】
---------------	---

II. 目標達成のための主な取組み【DO】	
何を・どうした	いつ
① ごみの減量化の取組の案内を広報などにより市民へ周知し、併せて市内販売店にも、店内にごみの減量化のチラシの掲示を依頼した。	R1.5-6
② 指定袋の無料配布の廃止及び価格改定(中1枚40円→20円、小1枚30円→15円)を行った。	H31.4-R1.7
③ 平成31年度より町内会への立ち番等支援金を増額し、ごみの更なる減量化、資源化対策を町内会にお願いした。	R1.6
④ 外国人の転入時に通訳を通してゴミの出し方の説明を行った。また、ルールが守られていないごみステーションに多言語によるルール周知を行った。	-

### III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)	
環境美化・保全に対する市民意識は広報による周知、ごみ袋販売店へごみ減量チラシの掲示等により向上しているため、きれいなまちが保たれている。また、立ち番等支援金を増額したことで、町内会の独自の取組として、立ち番によるごみ減量方法の周知を行っている町内会もあり、リサイクルの推進がはかられている。	

### IV. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	いつまでに
ごみ減量に向けた環境美化活動の活性化が必要である。	
課題解決に向けた方向性(案) 地域・学校・事業者・関係機関と連携した環境保全活動に取り組む必要がある。ごみ減量については、市民意識が減量化及び分別収集によるリサイクルに取り組む姿勢が表れてきていることから、情報発信を継続的に行い、ごみの減量化を進めている。また、環境美化推進員への登録を企業、学校に働きかけて拡大を図る。	R3.3

### V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

--

## 目標（8）自然と都市機能が調和した都市空間をつくります

I. 目指す姿【PLAN】	
目標達成に向けての考え方	住みやすい快適な都市空間をつくるため、道路やライフライン等について、予防保全型の計画的な維持管理や長寿命化を図るとともに、公園・緑地といった地域資源を地域とともに守り、まちの魅力を高めていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 都市空間の調和を保ち、安心で安全な暮らしを支える道路などの整備・保全が計画的に行われています。</li> <li>◎ 快適な生活の維持に必要な不可欠なライフラインが整備されるとともに、いつでもすべての市民に安定して水が供給できています。</li> <li>◎ 公園・緑地などが地域とともに守り育てられ、まちの憩いの場として親しまれています。</li> </ul>
目標達成の進捗状況	A:順調 B:一定の進捗あり C:進捗が遅延している D:進捗が大幅に遅れている

目標の達成状況	策定値	実績値（H30）	実績値（H31）	実績値（R2）	実績値（R3）	
市民意識調査	【設問】調和の取れた土地利用が図られ、安全・快適で移動しやすいまちだと思う（％）					
	44.8	50.2	56.1			
みんなで目指すまちづくり指標	道路の長寿命化を計画的に実施した割合（幹線道路の舗装）（％）					目標値
	18.4	23.1	28.4			38.6
	配水管の耐震化率（％）					目標値
	18.5	20.5	22.4			25
	公園・緑地・稗田川の水辺・港湾緑地等を利用している人の割合（％）					目標値
	20.2	24.6	25.0			23

こんなことに取り組みます！	（1）道路や橋りょう等の計画的な維持管理のため、調査・点検を進め、改良や修繕を行います。 <b>【土木グループ】</b>
---------------	--

II. 目標達成のための主な取組み【DO】	
何を・どうした	いつ
① 橋りょうの保守点検を実施した。	R 2.3
② 舗装維持管理計画を作成した。	R 2.3
③ 舗装修繕工事（二級市道碧南高浜線）を0.12 km実施した。	R 2.3

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】	
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）	
<p>○まちづくり指標「道路の長寿命化を計画的に実施した割合（幹線道路の舗装）」28.4％（前年度比5.3％）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・舗装維持管理計画に基づき、損傷度・重要度の高い路線を計画的に舗装修繕が実施できた。</li> <li>・道路利用者の安全・安心を守るため、舗装維持管理計画に基づき、継続的な修繕を実施する必要がある。</li> </ul>	

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】	
課題	高度成長期以降、区画整理事業などにより急速に整備した道路が老朽化に伴い、損傷箇所が増加することが懸念される。
課題解決に向けた方向性（案）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舗装維持管理計画に基づき、損傷度・重要度の高い路線を計画的な舗装修繕を図る。</li> </ul>
	いつまでに 適宜

こんなことに取 り組みます！	(2) 災害時でも水が安定的に供給できるよう、災害時避難所へ水道を供給する配水管を耐震管に布設替えるなど、耐震化を進めます。【上下水道グループ】	
<b>II. 目標達成のための主な取組み【DO】</b>		
	何を・どうした	いつ
① 配水管を耐震管に入れ替えた。(主要地方道岡崎半田線外)		R2.3
② 配水場の老朽設備を更新した。(高浜配水場・吉浜配水場)		R2.2
③ 重要給水施設(指定避難所)への配水管を耐震管に入れ替えた。 (重要給水施設:吉浜小学校)		R2.1
<b>III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】</b>		
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)		
○まちづくり指標「配水管の耐震化率」22.4%(前年度比1.9%) ・避難所などへ供給している配水管、新規埋設管、下水道整備区域内の配水管について、耐震化が実施できた。 ・利用者に対し、常時はもちろんのこと災害時にも安心して安全な水道水を安定して提供できるよう、引き続き管路の耐震化を進める必要がある。		
<b>IV. 課題と今後の取組み【ACTION】</b>		
課題	健全経営を考慮し、計画的に整備を進める必要がある。	いつまでに
課題解決に向けた方向性(案)	◎配水管を耐震管に入れ替える。(新規埋設管、下水道整備区域等) ◎老朽管を計画的に耐震管へ入れ替える。 ◎配水場の老朽設備を更新する。 (配水ポンプ、ポンプ制御盤、受変電設備等)	適宜
こんなことに取 り組みます！	(3) 公園施設長寿命化計画に則って計画的に公園施設の修繕を進めるとともに、地域の関係団体と協働で「緑のあるまちづくり」を進めます。【土木グループ】	
<b>II. 目標達成のための主な取組み【DO】</b>		
	何を・どうした	いつ
① 後世山公園の遊具改修において、利用状況やニーズを調査し、地域の意見等を踏まえた遊具改修工事を行った。		R1.12
② 遊具の更新において、既存機能の集約化(複合遊具)を行った。		R1.12
③ まち協やNPO団体等の行事に参加し、地域団体の方と協働で、公園、緑地、街路樹や水辺の保全活動として、苗木の配布を行った。		H31.4~
<b>III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】</b>		
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)		
○まちづくり指標「公園・緑地・稗田川の水辺・港湾緑地等を利用している人の割合」25.0%(前年度比0.4%) ・市民意識調査結果によると公園・緑地などが幅広い年代に利用されていることが推測される。 ・公園・緑地などが、まちの憩いの場として親しまれ安全・安心して利用できるよう引き続き維持管理していく必要がある。		
<b>IV. 課題と今後の取組み【ACTION】</b>		
課題	老朽化した施設が年々増えてきている。	いつまでに
課題解決に向けた方向性(案)	◎老朽化が著しい施設を今後の維持管理費等を比較や地域利用状況等を調査し、地域の意見等を踏まえ改修等を進める。 ◎財政状況を踏まえ、優先順位をつけて改修する。	適宜

## V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

--

## 目標(9) 安全・安心が実感できるまちづくりを進めます

I. 目指す姿【PLAN】	
目標達成に向けての考え方	近い将来に発生が予測される大震災に加え、集中豪雨・台風・火災などの災害、身近に起きる犯罪・交通事故から生命を守り、被害を最小限に食い止めるため、市民・地域・事業者・関係機関・行政がそれぞれの役割を果たし連携を図る中で、安全・安心に暮らせる環境を築いていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 市民一人ひとりが、災害・犯罪・交通事故に対する予防や備えに取り組んでいます。</li> <li>◎ 「自助」「共助」「公助」の考えに基づく役割分担と相互の連携が強化され、防災・減災対策、防犯・交通安全対策など、安全・安心を守る活動が地域の中で積極的に行われています。</li> <li>◎ 誰もが安全で安心だと感じながら暮らしています。</li> </ul>
目標達成の進捗状況	A:順調 B:一定の進捗あり C:進捗が遅延している D:進捗が大幅に遅れている

目標の達成状況	策定値	実績値 (H30)	実績値 (H31)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	
市民意識調査	【設問】安全・安心が実感できる防災・防犯対策が進められているまちだと思う(%)					
	57.7	55.3	55.1			
みんなで目指すまちづくり指標	家具を固定している人の割合(%)					目標値
	59.1	61.0	63.0			70
	防災訓練に参加したことがある人の割合(%)					目標値
	61.9	61.7	64.3			72
	人口1,000人当たりの犯罪発生件数(件)					目標値
	6.9	6.5	5.9			6.0
人口1,000人当たりの交通事故発生件数(件)						3.0
	3.9	3.7	2.7			

こんなことに取り組みます！	(1) 自然災害に対し、市民・地域・事業者・関係機関と「自助」「共助」「公助」の考えに基づく役割分担と相互の連携強化を図り、実践的な防災・減災活動に取り組みます。【防災防犯グループ】
---------------	---

II. 目標達成のための主な取組み【DO】	
何を・どうした	いつ
① 町内会、まちづくり協議会、日赤奉仕団、高浜の防災を考える市民の会など、地域の要となる方々が多数出席し、防災リーダー養成講座の基礎編・避難所編・フォローアップ編を開催した。また、吉浜小学校区を対象に、避難所運営に関する検討会を実施し、開設までの手順書、屋内・屋外のレイアウトを作成した。	R1.7~
② 市内在住の防災士等が主体となり、外国人向け防災勉強会を実施した。	R1.12
③ 商工会建設部会の災害時緊急連絡網の整備、また、土木・水道など分野別の意見交換を定期的に進める中で事業者との連携強化に努めた。また、令和2年3月に、商工会と災害時における応急物資等の支援協力に関する災害協定を締結した。	H31.4~

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)
<p>●市民意識調査 55.1% (実績値 (H30) ▲0.2%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・50歳代以上が増加している一方で、40歳代以下が低下している。学校等との連携強化を図るなど、様々な手法を通して、防災や防犯等に関する情報や対策を市民一人ひとりに提供していく必要があると考える。</li> </ul> <p>○まちづくり指標「家具を固定している人の割合」63.0% (実績値 (H30) +2.0%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの大規模地震の現状などを踏まえた市民の減災意識の向上、平成29年度と30年度に専門家を招き実施した地域防災リーダー養成講座(家具固定)の成果等によるものと分析している。</li> </ul> <p>○まちづくり指標「防災訓練に参加したことがある人の割合」64.3% (実績値 (H30) +2.6%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市や町内会が行う防災訓練に加え、学校や企業等による訓練の実施など、近年の災害発生状況などを踏まえ、防災訓練の機会が充実されてきている成果によるものと分析している。</li> </ul>

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】		
課題	<b>「自助」「共助」「公助」に基づく地域や事業者との連携強化</b> ・災害の規模が大きいくほど、行政が担う「公助」には限界があり、災害リスクを軽減するためにも、平常時から「自助」「共助」「公助」に基づく役割分担等を図る中で、防災・減災対策を推進することが重要となる。	いつまでに
課題解決に向けた方向性(案)	◎平常時や災害時に、地域の中で防災・減災対策の中心的な役割を担う地域防災リーダーを養成するとともに、地域の実情に即した訓練の実施に向け、まちづくり協議会のグループ会議などで調整を進める。また、新たな小学校区を対象に避難所運営に関する検討会を実施する。 ◎外国人割合が高い現状を踏まえ、NPO法人や防災士等と連携を図りながら、外国人向けの防災訓練等を実施する。 ◎商工会(建設部会等)と連携し、提供資機材や人員の調整など、連携強化に向けた意見交換等を進めるとともに、新たな協力事業者の確保に努める。	R3.3  R3.3  R3.3

こんなことに取り組みます!	(2)「高浜市みんなで犯罪のないまちにしよう条例」に基づき、地域・警察等で構成する高浜市防犯ネットワーク会議を軸に、犯罪抑止活動を推進します。【防災防犯グループ】
---------------	---

II. 目標達成のための主な取組み【DO】		
	何を・どうした	いつ
①	春・夏の安全なまちづくり運動期間中の駅やスーパー等での啓発活動、年金支給日に銀行での特殊詐欺防止活動、毎月10日に防犯診断自宅訪問などを関係機関等と連携して実施した。	H31.4～
②	地域及び警備会社による青色防犯パトロール活動を実施した。	H31.4～
③	ホームページへの掲載、防災訓練説明会や班長会など、市民が参加する様々な機会を活用して、防犯・交通安全に関する情報ツールの一つであるパトネットあいちの登録促進に努めた。	H31.4～
④	令和10年度までの防犯カメラ更新及び設置計画を作成した。また、町内会からの要望等を踏まえ、要綱に基づき防犯灯を設置した。	H31.4～

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】	
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)	
<b>●市民意識調査 55.1% (実績値 (H30) ▲0.2%)</b> ・50歳代以上が増加している一方で、40歳代以下が低下している。学校等との連携強化を図るなど、様々な手法を通して、防災や防犯等に関する情報や対策を市民一人ひとりに提供していく必要があると考える。 <b>○まちづくり指標「人口1,000人あたりの犯罪発生件数」5.9件 (実績値 (H30) ▲0.6件)</b> ・防犯の4原則の一つである「地域の目」として、青色防犯パトロールを始めとする地域防犯力の向上が、犯罪発生抑制に大きく寄与していると考えられる。	

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】		
課題	<b>犯罪発生件数の減少対策の強化</b> ・増加傾向にある高齢者を狙った特殊詐欺や住宅侵入盗などへの対策に取り組んでいく必要がある。 ・市内の犯罪発生状況など、市民への情報提供を図る中で、「自助」としての防犯意識を高めていく必要がある。	いつまでに
課題解決に向けた方向性(案)	◆町内会、まちづくり協議会、警察等で構成される「高浜市防犯ネットワーク会議」を軸に、関係者と連携して各種の防犯対策に取り組む。 ◎駅やスーパー等での啓発活動、年金支給日に銀行での特殊詐欺防止活動等を実施する。 ◎地域と役割分担を図りながら、青色防犯パトロール活動を実施する。 ◎愛知県警が配信するメールマガジン「パトネットあいち」への登録促進を図る。 ◎主要交差点等に防犯カメラ、町内会からの要望に基づき防犯灯を設置する。	R3.3  R3.3 R3.3  R3.3

こんなことに取 り組みます！	(3) 地域・警察・事業者・関係機関と連携し、特に自転車の運転マナーの向上、高齢者や子どもの交通事故防止に向けた取組みなど、交通安全対策を進めます。【防災防犯グループ】	
<b>Ⅱ. 目標達成のための主な取組み【DO】</b>		
	何を・どうした	いつ
①	春・夏の全国交通安全市民運動期間中の一斉大監視活動等、10日・20日・30日のゼロの日街頭活動などを実施した。	H31.4～
②	小学生を対象とする自転車の安全な乗り方教室、自転車シミュレータを活用した実践教室などを実施した。	R1.6～
③	いきいきクラブ会員を対象とした交通安全講話を実施した。また、運転免許を自主返納した高齢者に、スマイルカード2千円分を贈呈した。	H31.4～
④	ホームページへの掲載、防災訓練説明会や班長会など、市民が参加する様々な機会を活用して、防犯・交通安全に関する情報ツールの一つであるパトネットあいちの登録促進に努めた。	H31.4～
<b>Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】</b>		
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)		
<p>●市民意識調査 55.1% (実績値 (H30) ▲0.2%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・50歳代以上が増加している一方で、40歳代以下が低下している。学校等との連携強化を図るなど、様々な手法を通して、防災や防犯等に関する情報や対策を市民一人ひとりに提供していく必要があると考える。</li> </ul> <p>○まちづくり指標「人口1,000人あたりの交通事故発生件数」2.7件(策定値比▲1.0件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・警察や関係団体等と連携した地道な交通安全活動の成果であると分析している。</li> </ul>		
<b>Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】</b>		
課題	<p><b>交通事故発生件数の減少対策の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故が増加している高齢ドライバーや自転車運転者等に対する交通安全対策を推進する必要がある。</li> <li>・市内の交通事故発生状況など、市民への情報提供を図る中で、「自助」としての交通安全意識を高めていく必要がある。</li> </ul>	いつまでに
課題解決に向けた方向性(案)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆警察や高浜市交通安全協会など関係機関と連携して各種の交通安全対策に取り組む。</li> <li>◎ゼロの日街頭活動、一斉大監視活動、スーパー等での啓発活動等を実施する。</li> <li>◎自転車の安全な乗り方教室、交通安全講話等を実施する。</li> <li>◎高齢ドライバーの運転環境をサポートするため、後付け安全運転支援装置の設置費の一部を補助するとともに、引続き交通安全協会等と連携を図りながら、運転に不安がある高齢者への自主返納の促進等に努める。</li> <li>◎愛知県警が配信するメールマガジン「パトネットあいち」への登録促進を図る。</li> </ul>	<p>R3.3</p> <p>R3.3</p> <p>R3.3</p> <p>R3.3</p>

**V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】**

--





目標(10) 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます

I. 目指す姿【PLAN】	
目標達成に向けての考え方	市民が抱える課題や福祉ニーズは、年々複雑化・多様化しています。家族、近所、町内会、まちづくり協議会などの地域のネットワークや事業者、関係機関などが協力して、誰もが住み慣れた地域で、その人らしく、安心して生活できる環境を築いていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 困りごとを抱え、支援を必要とする人に対して、包括的な相談支援が行われています。</li> <li>◎ 支援を必要とする人に対して、ニーズに応じた福祉サービスが提供され、誰もがその人らしくいきいきと暮らしています。</li> <li>◎ 福祉サービスやふだんの生活を支える人材が確保され、地域の中で互いが協力し、支え合いの担い手として活躍しています。</li> </ul>
目標達成の進捗状況	A:順調 B:一定の進捗あり C:進捗が遅延している D:進捗が大幅に遅れている

目標の達成状況	策定値	実績値 (H30)	実績値 (H31)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	
市民意識調査	【設問】一人ひとりが認め合い、高齢者や障がい者などがいきいき暮らすことができるまちだと思う(%)					
	63.0	58.5	62.9			
みんなで目指すまちづくり指標	いきいき広場(総合相談窓口)を知っている人の割合					目標値
	72.3	74.8	77.2			80
	高浜市内でボランティア活動に参加したことがある人の割合					目標値
	29.7	28.3	29.1			36

こんなことに取り組みます!	(1) 生活困窮、介護、障がい、育児など、支援が必要な人に対し、早期かつ包括的な相談支援を行い、各々の事情に応じた支援につなげます。
---------------	--

II. 目標達成のための主な取組み【DO】	
何を・どうした	いつ
◆生活困窮者の支援で就労準備支援が必要な方に対し、円滑な連携が図れるよう就労準備支援の協力事業者にも支援方針を検討する支援調整会議のメンバーに加えた。	H31.4
◆生活困窮家庭やひとり親家庭等への支援として実施する学習支援事業において、支援の充実を図るため、こども貧困対策会議を開催し学習支援事業の成果(利用者の進路等)を報告し、事業の検証を行った。	R1.7
◆障がい児者が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう地域全体で支える体制の拠点となる「地域生活支援拠点」を令和3年4月に開所するため、高浜市障害者地域自立支援協議会に地域生活支援拠点部会を設け、検討を行った。	R1.8~
◆障がい児者数が増加する中、障がい児者への相談体制の充実を図るため、市内社会福祉法人と相談支援事業所の立ち上げについて協議を開始した。	H31.4~
◆消費者安全確保と権利擁護支援を一体的に進めるため、高浜市権利擁護支援システム推進委員会に消費生活相談員を加えた。	R1.12

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)
<p>○市民意識調査 62.9%(策定値比▲0.1%)</p> <p>策定時の63.0%より、あまり差のない結果となった。年代別調査で50歳代前後の世代が毎年低い傾向にある。この世代の底上げのため、各取組みでの関わり合いを意識していく必要がある。</p> <p>○まちづくり指標「いきいき広場(総合相談窓口)を知っている人の割合」77.2%(策定値比4.9%)</p> <p>福祉の総合拠点としての取組みが、多くの市民に認識されつつあること、また、こども未来部と教育委員会がいきいき広場に移転し、妊娠期から高齢者までの全世代型の相談拠点として機能してきたことも「まちづくり指標」の増加要因と考えている。引き続き、生涯にわたる切れ目のない支援拠点として、相談支援の充実を図っていくことが必要である。</p>

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】		
課題	○相談支援の充実 いきいき広場の相談支援を充実させ、福祉に関する困りごとを気楽に相談できる場としてより多くの方に認識していただく必要がある。	いつまでに
課題解決に向けた方向性(案)	◎生活困窮者の支援策として、家計管理支援の視点も取り入れ、早期に困窮状態からの脱却できるよう支援を行う。また、ひきこもり等の社会的に孤立している方への支援として、対象者に寄り添う伴走型の専門員を配置し相談支援の充実を図る。	R2.4
	◎学習支援では学校との連携を引き続き実施するとともに、新たに教育委員会内に配置されたスクールソーシャルワーカーと連携を図り、個々の児童生徒の状況に応じた支援を行う。	R2.4
	◎障がいのある方に対し、24時間、365日電話相談の対応や、緊急時における障がい児者の受け入れなど、複数の障害事業所が協力し、障がい児者を支える体制の整備を進めていく。	R3.3
	◎社会福祉法人昭徳会により「障がい者支援センター高浜安立」が開設され、相談支援の拠点が市内に2ヶ所となり、障がい児者への相談体制の充実が図られた。今後は広報、ホームページ等により、周知を図っていく。	R2.4～
◎高齢者や障がい者の消費者被害を防止するための手段として、「えんじょネット高浜」を活用し、医療機関や介護事業所、ケアマネへ被害情報などを発信する。	R2.6	

こんなことに取り組みます！	(2) その人に合った暮らしを実現するため、地域の実情に応じて、福祉サービスや地域の支え合いの充実を図ります。
---------------	---

II. 目標達成のための主な取組み【DO】		
何を・どうした	いつ	
◆災害時に要支援者(高齢、障がい、要介護者等)の避難支援等において、地域の支えあいの充実を図るため、地域の支援関係者(まちづくり協議会や町内会など)に災害時要支援者名簿を配布するとともに、総合防災訓練において名簿の活用支援を依頼した。また、地域での名簿の活用状況を把握しモデル的な事例を示すため、各地域の活用状況調査を行った。	R1.5	
◆スポーツを通じた障がいのある方への交流として実施する「ポッチャ」の普及を図るため、高浜高校、各児童センターにてポッチャ指導を実施した。	R1.6～	
◆特別支援学校の卒業生に対する就職支援として、就労先(受入先)のニーズ調査と事業所との調整に向けて準備を行った。	H31.4～	
◆認知症の方やその家族が事故等により本人だけでなく他者へ損害を与えてしまうなどの不安を軽減するため市が契約者となり、市民で支える仕組みとして個人賠償責任保険へ加入を行った。	R1.6	

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】		
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)		
○まちづくり指標「高浜市内でボランティア活動に参加したことがある人の割合」 29.1%(策定値比▲0.6%) 複雑・多様化する福祉ニーズに対応するためには、公的なサービスに加え、共助である地域の支えあいの充実が図られる取組みが必要となる。こうしたことから、地域での支え合いの仕組みづくりが「まちづくり指標」の増加につながるものと考えている。		

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】		
課題	○地域の支えあいの充実 地域における「互助」の担い手を増やすとともに、支えあいの意識を高めることで、すべての人が暮らしやすいまちづくりを目指していく必要がある。	いつまでに
課題解決に向けた方向性(案)	◎災害時要支援者の避難支援等について、調査を行った要支援者名簿の活用事例を参考に、それぞれの地域において支援に携わる方の役割について、協議を進めていく。	R2.6～
	◎高浜高校や各児童センター等にてポッチャ指導を実施することで、なるべく若い時から障がいへの理解を深め、地域の支え合いを学習してもらう。	R2.中
	◎対象となる認知症の方を早期に把握するため、継続的に高浜市認知症高齢者等見守りSOSネットワーク事業の周知を行う。	R2.4～

基本目標Ⅳ いつも笑顔で健やかに つながり100倍ひろげよう

こんなことに取り組みます！	(3) 福祉サービスやふだんの生活を支えるための多様な人材を養成します。	
<b>Ⅱ. 目標達成のための主な取組み【DO】</b>		
	何を・どうした	いつ
◆介護に対する理解を深めるため、「高浜市介護サービスガイド」パンフレットを作成・配布した。		H31.4～
◆各事業所の研修に他事業所職員が受講できる「介護事業所相互交流研修事業」を開始した。		R1.8～
<b>Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】</b>		
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)		
○まちづくり指標「高浜市内でボランティア活動に参加したことがある人の割合」 29.1% (策定値比▲0.6%) 複雑・多様化する福祉ニーズに対応するためには、地域の支えあいの充実が必要となるが、それを支える人材の発掘や養成も必要となる。こうした人材の確保、人材の育成が「まちづくり指標」の増加につながるものと考えている。		
<b>Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】</b>		
課題	○地域福祉を支える人材の確保及び育成 福祉に携わる方を増やし、かつ育てていくことで、地域福祉の将来を担う人材を育成していく必要がある。	いつまでに
課題解決に向けた方向性(案)	◎市と市内の全介護事業所が連携し、介護職の魅力を発信することで、若年層やアクティブシニア層といった新たな担い手の発掘を行う。	R2.4～
	◎介護職員のキャリアアップと各事業所職員が交流を図ることで離職防止にもつながることから、引き続き「介護事業所相互交流研修事業」を実施する。	R2.8～

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

--



目標(11) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します

I. 目指す姿【PLAN】	
目標達成に向けての考え方	健やかで心豊かに生活するためには、健康であることが大切です。一人ひとりが健康づくり活動に取り組むことができるよう、地域全体で健康寿命を延ばしていくための環境づくりを進めます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 若いうちから、一人ひとりが自身の健康状態を把握し、健康づくり活動へ積極的に参加しています。</li> <li>◎ 誰もが住み慣れた地域で、生きがいや役割を持ち、健康でいきいきと暮らしています。</li> <li>◎ 医療、介護、予防、生活支援の連携体制（地域包括ケア）が構築されています。</li> </ul>
目標達成の進捗状況	A:順調 B:一定の進捗あり C:進捗が遅延している D:進捗が大幅に遅れている

目標の達成状況	策定値	実績値 (H30)	実績値 (H31)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	
市民意識調査	【設問】一人ひとりの元気と健康づくりを応援しているまちだと思う(%)					
	65.8	61.7	60.5			
みんなで目指すまちづくり指標	日常的に外出や運動を楽しんでいる人の割合(%)					目標値
	63.4	66.3	62.6			71
	かかりつけ医を持っている人の割合(%)					目標値
	78.6	74.7	70.1			84

こんなことに取り組みます！	(1) 生涯をとらして健康を意識し、生活の質を高めるための健康づくり活動を応援します。【健康推進グループ】
---------------	---

II. 目標達成のための主な取組み【DO】	
何を・どうした	いつ
① 健康づくり推進委員が3グループに分かれ、「野菜を食べよう」をテーマに、それぞれの地域で活動を実施した。	H31.4~
② 農業まつりと合同でチョコと健康フェスティバルを開催し、クイズやダーツなどを用いて、健康づくり活動を勧奨した。	R1.11
③ 3小学校の6年生児童を対象に、生活習慣病予防教室を実施した。	R1.7
④ 商工会をはじめ、各種団体の会議などで、たかはま健康チャレンジシートを配布し、参加を促した。	H31.4~

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】	
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)	
市民意識調査では、10歳代、20歳代の数値が伸びている一方で、30歳代以降の数値が減少した。小学校で実施している生活習慣病予防教室を通じて、児童への意識啓発が効果を上げてきていると考えられる。みんなで目指すまちづくり指標でも、10歳代、20歳代の数値が伸びている一方で、30歳代以降が減少傾向となっている。アンケートを実施した時期が、ちょうど新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言発令中であったこともあり、「外出」というキーワードに関しては、否定的に捉える回答者も多かったのではないかと考えられる。	

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】	
課題	いつまでに
若い世代からの健康づくり	
課題解決に向けた方向性(案)	R3.3
引き続き小学校での生活習慣病予防教室を継続して、年少期からの基本的な生活習慣の見直しと健康教育を啓発していく。また、仕事や子育てなどで自身の健康について後回しになりがちな30歳代以降の健康意識の向上させるため、「たかはま健康チャレンジ」などに参加し、自らの健康づくりに励むよう積極的な情報発信を行う。	

こんなことに取り組みます！	(2) 高齢者の居場所である「健康自生地」を応援するとともに、担い手としての活躍の場を創出します。【健康推進グループ】	
<b>Ⅱ. 目標達成のための主な取組み【DO】</b>		
	何を・どうした	いつ
①	ミニでいでーる(2019年8月1日号)で夏にオススメの健康自生地の特集を、でいでーる(2020年1月1日号)で寒い冬に出かけたい健康自生地の特集を掲載した。また、「ホコタッチレポート」として、健康自生地の活動に参加することで、認知機能と身体活動が向上する研究結果を、でいでーるに掲載した。	R2.1
②	「コグニタウン事業」の新規参加者を募り、閉じこもりがちな高齢者と健康自生地をつなげた。	H31.4～
③	バスツアーやウォーキングツアーといったイベントを開催し、参加者に複数の健康自生地の活動を体験してもらった。	R1.10、 R1.11
<b>Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】</b>		
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)		
市民意識調査及びみんなで目指すまちづくり指標とも、60歳代の数値が大きく減少し、全体の数値の減少に大きく影響していると考えられる。70歳代以上についても、数値が減少傾向にある。閉じこもりがちな高齢者の外出促進を図り、認知機能と身体活動の低下を防ぐためにも、60歳代以上の数値を高めていく必要がある。		
<b>Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】</b>		
課題	高齢者の健康づくり活動への参加	いつまでに
課題解決に向けた方向性(案)	高齢者が家に閉じこもらず、地域の人と交流しながら、積極的に健康づくり活動に参加したり、健康自生地の担い手として活躍したりする機会を創出する。そのためにも、興味のある健康自生地へ出かけたり、健康づくり活動に参加したりできる魅力的な情報発信に努めていく。また、引き続き、閉じこもりがちな高齢者に対して、「コグニタウン事業」への参加を促し、閉じこもりがちな高齢者と健康自生地とをつなげる取組を継続する。	R3.3

こんなことに取り組みます！	(3) 疾病を早期に発見し、適切な治療が受けられる「かかりつけ医」を持つよう働きかけるとともに、地域医療と介護の連携を推進します。 【福祉まるごと相談グループ】【健康推進グループ】	
<b>Ⅱ. 目標達成のための主な取組み【DO】</b>		
	何を・どうした	いつ
①	医療機関より患者に対してリーフレットを配布するとともに、診療所等への在宅医療に関する勉強会を行った。	R1.6～
②	「えんjoyネット高浜」を活用した事例検討会を開催した。	R1.7～
③	地域医療ネットワークによる病診連携が図られていることを周知するとともに、かかりつけ医を持つように健診、ホームページ等で呼びかけた。	H31.4～
④	休日及び夜間における診療を確保するため、医科及び歯科医師会との連携を図り、在宅当番医制を実施するとともに、6市による2次救急医療体制を継続した。	H31.4～
⑤	市と医療法人豊田会が協力して地域医療の継続を図る中で、高浜豊田病院がオープンした。	R1.7
<b>Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】</b>		
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・住み慣れた自宅で安心して療養していただくための医療・介護の連携体制は着実に進められているが、医療機関にかかっていない方に対する周知が不足している。</li> <li>・特に、10歳代及び20歳代のかかりつけ医を持っている人の数値が、他の世代の数値に比べて低い傾向にある。</li> </ul>		
<b>Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】</b>		
課題	医療を必要としていない方への周知	いつまでに
課題解決に向けた方向性(案)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎「えんjoyネット高浜」の活用を促進するため、医療・介護関係者がお互いに顔を合わせて話し合う場を継続的に設ける。</li> <li>◎診療所等に対し在宅医療に関する勉強会を実施し、医療機関を通じて患者や若年世代へかかりつけ医に関する周知を行う。</li> </ul>	R3.3

## V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

--